

道 徒 の 聖



1960

11月号

末日聖徒イエス・キリスト教会

内 案 書 図

教義と聖約	高価なる真珠	モルモン経	教義と聖約	高価なる真珠	モルモン経
上質革製合本……	一〇〇円	合本……	三〇〇円	モルモン経(新訳)……	二〇〇円
信仰箇条の研究……	三三〇円	モルモンとは……	一〇〇円	完成への道……	二〇〇円
初等協会教科書……	一五〇円	総合聖句の手引……	一五〇円	日本系図探究要覧……	一〇〇円
古代アメリカの生活……	一〇〇円	旧約聖書物語……	一五〇円	家督権の祝福……	一〇〇円
扶助協会手引……	五〇円				

日曜学校用	宗教と生活Ⅱ……	よきおとづれ……	聖書物語……	福音の実践……	聖典中の指導者……	M I A 用	役員と指導書の手引……	モルモン経研究ガイド……	真理の道……	M I A 手引(付録)……	演劇指導者基礎知識と脚本集……	演説が上手になる法……	社交ダンス必携……	新しいフォークダンス……	讃美歌及び歌集	末日聖徒讃美歌……	末日聖徒讃美歌拔萃……	子等は歌う……	レクリエーション歌集……
	一五〇円	一〇〇円	一五〇円	一五〇円	一五〇円		一〇〇円	一〇〇円	一〇〇円	五〇円	七五円	一五〇円	一六〇円	五〇円		三〇〇円	三〇〇円	一〇〇円	四〇〇円

聖 徒 の 道

1960年11月号



〔予言者のことば〕

「汝らはキリストに就きて如何に思うか」

……… デビド・O・マッケイ…(330)

〔伝道部長メッセージ〕

伝道強調の三カ月

……… ポール・C・アンドラス…(333)

「モルモンの教義」

「神の子」イエス・キリスト(18)…佐藤 竜猪…(335)

伝道強調特集

I 「全世界を巡りて凡ての造られし者に
福音を宣伝えよ」 ……… 大塚 昌治…(340)

II 伝道のよろこび ……… 梶山 克宏…(342)

III 非専任宣教師に召されて … 功刀えい子…(344)

IV 恵みの機会非専任宣教師 … 雨宮 昭子…(346)

V 種播く者となろう ……… 渡部 正雄…(348)

IV 神の愛によりモルモンの家族へ
……… 稲垣 高義…(351)

VII 広がる伝道、伸びゆくシオン
……… (352)

VIII スターキ部と全伝道部の統計 ……… (354)

IX 北部極東伝道部統計 ……… (355)

X 君の名はモルモン宣教師 ……… (356)

ユタ物語(2)…リーヴァイ・エドガー・ヤング…(358)

末日聖徒イエス・キリスト教会歴史粹(10)

ジョセフ・フィールドینگ・スミス…(362)

新支部長会組織される—東京・横浜・仙台— ……(366)

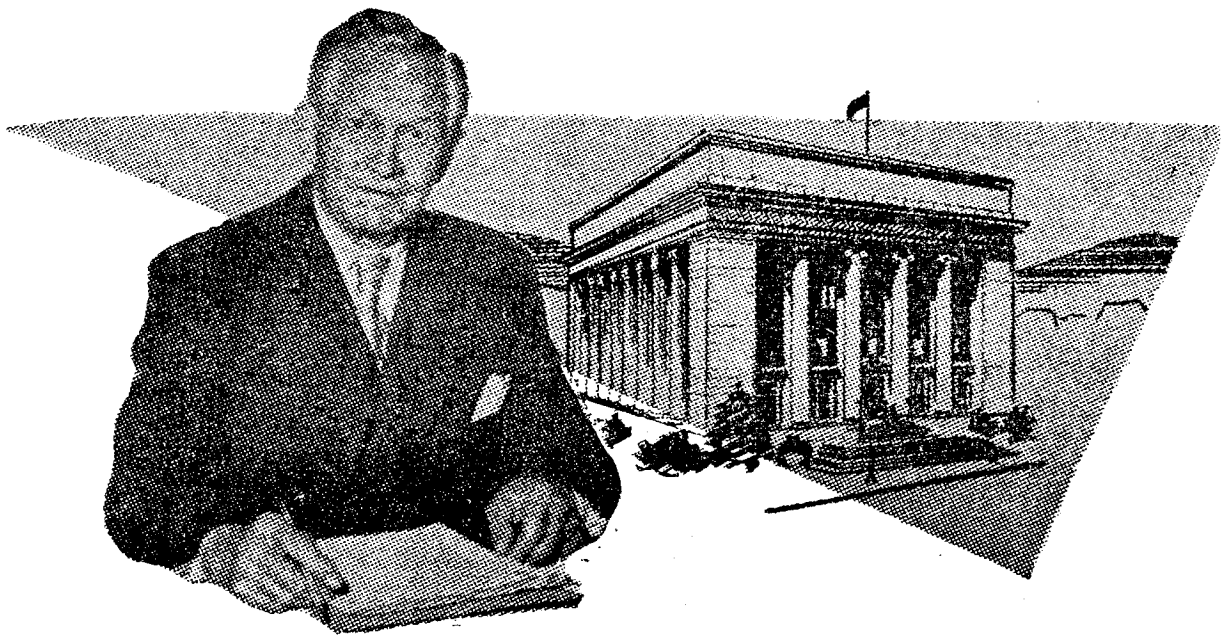
人物救助で感謝状—クレイガン長老— ……(367)

<時の課題>

「選 挙」 ………デビド・O・マッケイ…(367)

伝道本部だより ………(368)

も
・
く
・
じ



予言者のことば

「汝らはキリストに

就きて如何に思うか」

大管長 デビド・O・マッケイ

今月のエラ誌には「時の絶頂」に於けるイエス・キリストの十二使徒に関する画家の着想を全色で再現した挿絵を特色とする特別記事が載っている。画家の彩色した絵は非常に優れてはいるが、これらの画題は全く別の理由すなわちこれら十二人の謙虚な人々の中心を為す力を考えて選ばれたのである。

その力こそイエス・キリストとイエス・キリストが自らの福音の中で発表したもうた万人にとっての「救いの計画」である。

「汝らはイエス・キリストに就きて何と思うか」(マタイ伝二十二〇四十二)これは「時の絶頂」に尋ねられた質問である。「汝らはイエス・キリストに就きて何と思うか」これは今日もなお尋ねられている。

イエスが導きと恵みを施したもうた全生涯の中で最も壮嚴な場合の一つに、イエスは自分が選んだ十二人に言いたもうた。

「これらのことを汝らに語りたるは、汝らわれに在りて平安を得んためなり。汝ら世に在りて患難あり、されど雄々しかれ、われすでに世に勝てり」と(ヨハネ伝十六〇三十三)。この意義深い言葉は約束と事実の声明との二つを

含んでいる。

【約束】約束は、もし人々がイエスの言葉を聞くなれば、彼らは平安を見出すにちがいないということである。次に事実——この世界には患難がある。また人間自身の態度と行い次第で平安も患難も受けると暗に言っている。

イエスは罪から世の人を救うためにこの世へ来たもうた。イエスはあらゆる一人一人の人類に対する愛の心を持って、また万人の救いと再生の可能性とを持ってこの世へ来たもうた。イエスをわれわれの理想と選ぶことによって、われわれは自分の内にイエスの如くなりたいという願いと、またイエスと親しい交わりを持ちたいという願いとを起す。われわれは今あるべきままに、また将来成るべきままに人生を受けとっている。

イエスはいつも一人一人の幸福を求めたもうたから、一人一人は集って神の王国のもとである福音の原則に従って全体の幸福のために働いている。イエスは個人の人格を最も高く認めたもうた。「イエスが神の王国として描写したもうた理想の状態は、全人類が神と隣人とに捧げる愛によって一致し支配されている共和国である」。

イエス・キリストがいつも信者たちに示したもうた目標は、人類を貪欲と怒りとねたみと憎しみと怖れから解放することであって、イエスはこれらの代りに正しい考えと無我と効果のある働きとによって個人が有っている神聖な力

を完全にまた正常に発展させたいとお思いになった。

十二使徒のかしらであるペテロ、不撓不屈のパウロ、予言者ジョセフ・スミスそのほか復活の主を本当に信ずる人々は、イエスを人類一人一人の救い主であると認めた。

「見よ、これわが業にしてわが栄光、すなわち人に不死不滅と永遠の生命とをもたらすなり」(モーセの書一〇三十九)と仰せになったではないか。人はそれぞれ自分の運命を造る者であるから、神の靈感を受けることなしに、また自分というものは外からでなく内から成長することを悟らずに自分を造り上げようとする者は本当に不幸である。

この世の人々が義しい生活をしないならば、その人々は本当の生活をしていないから取るに足らないものであるとイエスははっきり仰せになった。霊の力はすべてのものの基であって、これなくして価値のあるものは一つも出来上らない。

隣人に誠実でなければ自己に誠実になることはできないとイエスは教えたもうた。また、人は自己に誠実でなければ隣人に誠実になることはできない。

現在生きたもうキリストというお方とその聖い真理とを信ずるすべての者にとって、人生は非常に美しくまた嬉しいものである。生きていくということだけで、すばらしいことである。恍惚とした喜びさえ、生きていくという自覚の中に経験される。人間は個々の実在であることを悟ると

きに、またその実在は神が万物を創りたもうた計画の一部分であることを真に悟るときにこの上ない満足がある。あらゆる貧しい者、富んでいる者、病んでいる者、不具な者もみなこの関係に気づいている。神は物質的な賜物を約束したまわなかったが、完成された、神のような人となることを約束したもうた。その神のような人となることによってついに真の幸福が得られるのである。

キリストは人類の光明である。その光明の中に人類は自らの道を見る。その道が捨てられた時、人類は暗黒の中につまずく。個人と国民とがその光明を消した時、すなわちキリストとその福音とが「ジャングルの律法」と剣の力によってとって代られるのは悲しむべきことである。現代に於ける最大の悲劇は、神の慈悲を信じないことと福音の中にある教えと教義を信ずる信仰に欠けていることである。

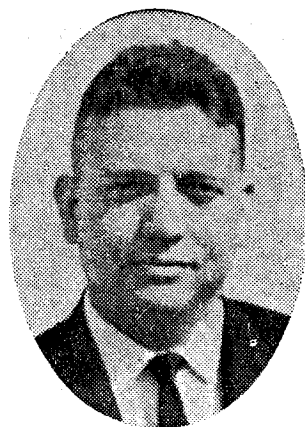
もしも人類がイエスの教えを実地に試みてみるならば、その教えは個人に就て効果があるように適用ができると同じく、社界団体や国家の諸問題にも有効に適用ができる。現代の世界精神は平和の確立に相反している。平和はイエス・キリストの福音に服従することによってのみ世界に来る。

福音、すなわち大きな喜びを告げる喜びの便りは人類を導く真の道しるべである。そして全世界にわたる患難と破壊と死とを助成するものである憎悪と迫害と暴虐と支配と

不正との正反対、すなわち福音の教えに最も近い生活をする人々こそ最も幸福であり最も満ち足りた人々である。人類がこれまで地上に見出したものよりもっと高いまたもっと良い何ものかを得ようと切に望んでいる悲しみの人に対するイエス・キリストの福音は、冬の支配を逃れようともがいてゐる土に対する青空の太陽に比べることができる。

末日聖徒イエス・キリスト教会の会員は、全く罪のない「人の子」すなわち、かつて地上に生を受けたもうたことのある完全なお方、イエス・キリストをその理想とする義務がある。イエス・キリスト、気高きの最も荘厳な実例、神と同じ性格、完全な愛、人類の救い主、永遠の父なる神の独り子、光明、生命、道……私はイエス・キリストが真に生きたもうこと、神の御子であること、「この神権時代」に完全な救いの計画を回復したもうたことを体験によって確信するものである。

キリストに「すべての人なんじを求む」と本当に言うことのできるとき、この古い世界に在る状態は何とすばらしいことであろう。利己主義、うらやみ、憎悪、うそ偽り、盗み、詐欺、不服従、国家間のけんか争闘、これらのすべては本当に人類の救い主に向って「すべての人なんじを求む」と言える時、もはやこの世になくなるにちがいない。



伝道強調の三カ月

ポール・C・アンドラス

「教義と聖約」の第四章で、主は「一つの驚嘆すべき業、まさに人の子らの中に現われんとす」とはっきり宣べておいでになります。主はこれを千八百二十九年に宣言して、主の教会がこの地球上に回復されて成長することを言っておいでになります。

主の教会は千八百三十年に再び樹立されてその時以来いちじるしい成長をとげ、今や百五十万を充分超える会員を有するに至っております。ダニエルが昔予言しておいたように、この教会はますます成長をつずけてついに「全地に満ち」るにちがいありません（ダニエル書二〇三十五）。

ちょうどこの時に当って、当教会はいままでにない最も急速な成長を経験しております。本年の始めに大管長会が宣教師に対してその目標を高め、努力を増加するように要求されました結果、当教会の各伝道部のいたるところに於て新しく宣教師活動が急激に高まっております。昨年は当教会に属する四十八の伝道部に於て合計二万三千名を僅に越す改宗者がバプテスマを受けて会員になりました。今年はい言いますと、各伝道部を通じてすでに二万三千名以上の改

宗者が教会に加わっておりまして、今年の終りまでには三万五千名以上の改宗者が各伝道部に於てバプテスマを受けることになるでしょう。この数字はステーク部の宣教師によってバプテスマを受ける一万五千名の改宗者を含んで居ませんから、千九百六十年にバプテスマを受けて会員となる改宗者の数は合計五万名近くになることになります！ また会員の小児であって祝福を受けたりバプテスマを受けたりする者の数を考えるときに、本年に於ける教会々員数は総計十万名の増加を見ることになります！ まことに当教会は世界にいたるところに於て榮えて居るではありませんか。

北部極東伝道部に於てもまた新しく宣教師活動が急激に高まり、当教会はこれまでよりも一層急速な成長を見ております。これまで当伝道部で一年間に行われた最多数のバプテスマは千九百五十八年の七百六十回であります。昨年行われたバプテスマは合計六百三十一回でありましたが、本年は九月の三十日に於てすでに六百二回のバプテスマが当伝道部に於て行われております！ すなわち九月だけで百五回のバプテスマが当伝道部で行われておりますので、今年

は過去に於けるどの年よりも多くの人々が当教会に加入してくることが明らかであります！

本年は改宗者の教が過去に於けるあらゆる年にあらわれた数を越すだけでなく、はるかに大きな開きを示すにちがいないしるしが見えております。大管長会がこの伝道部に対してきめられた目標を達成し、また世界中いたるところにつづけられている伝道事業の再新された大きな高まりに一致するために、伝道部長会は本年のこの三カ月を活潑な宣教師活動期間に指定しました。専任宣教師の各組は、このことを注意深く祈りの心で考えてから、今年のこの三カ月の中に教会へ導いて会員にならせることができると信ずる改宗者の数を報告するようにたのまれました。これらの目標を総計しますと五百五十五名の改宗者を得るという目標に達します。専任宣教師はこれで十月、十一月、十二月の三カ月間に五百五十五名の改宗者を教会員にならせるはずであります。私は専任教師の方々が成功を収めると信じます。

非専任宣教師もまた、今年の終りまでの三カ月間に得られると信ずる改宗者に関し、自分で目標を立てるようにならされておりますが、これを私が書いているときはまだその数字を受けとっております。せんけれども、非専任宣教師の方々もこの期間中に自分で百名以上の改宗者を教会に入れることができると私は確信しております。それでありまして、十月、十一月、十二月の三カ月間に六百名以上すなわち年間を通じて総計千二百名以上の改宗者が得られると思われまします！

千九百六十年の最後に於けるこの三カ月中に、私たちは伝道部長会として、会員各自がこの大宣教師運動に参加されるよう強く勧めたいと思います。会員一人一人は自分の親戚友人等を宣教師に紹介

することによってこの運動に参加することができます。宣教師の方々が、あなたとあなたの親戚とあなたと友だちとに、あなたの自宅でも教会でもどちらでもよいから会えるように取りきめをして下さい。あなたがこれらの集りに同席して、あなたの愛しました尊敬する人々に宣教師の方々が当教会の伝える福音の言葉を説明するのを助けることが大切であります。あなたの親戚友人等を紹介することによって、また宣教師の方々を助けることによって、あなたは神の王国に人々を導き入れる業に活潑に参加しているにちがいありません。

「汝ら、人の値は神の前に大いなることを憶えよ。見よ、そは汝らの贖い主なる主は肉体にて死を受けたればなり。これを以て彼はすべての人々の悔い改めて彼に來らんとために、すべての人々の苦を受けたり。彼はすべての人々悔い改むるならば彼に連れ行かんために、死人の中より再びよみがえれり。而して、悔い改むる人を見て彼の喜びは如何に大いなるか。これを以て、汝らは今の代の人々に悔改めを叫ばんために召さるるなり。而して汝らもし生涯今の世の人々に向いて悔改めを叫ぶことに力を尽し、唯一人の人たりともわれに導かば、わが御父の国に於て彼と共に汝の喜び如何ばかりぞや」(教義と聖約十八〇十六)。

当伝道部に於て「改宗者獲得の四半期」と名づけられたこの最後の三カ月中に、私たちはこそって私たちの力を結集して神の王国をますます盛んにならせようではありませんか。私がこれを書いてゐる時に、当伝道部には専任宣教師が百十四名、非専任宣教師が四十二名、会員が日本に二千八百十六名、韓国に七百三十二名、沖繩に二百二名、その他アメリカ人の会員が千二百名あります。これらの会員と宣教師の方々とがみな力を併せて働くならば、「改宗者獲得の四半期」の成果はまさに驚ろくべく驚嘆すべきものにちがいありません。さあ、働きましょう！

「神の子」イエス・キリスト（十八）

佐藤 龍 猪

「なんぢはキリスト、活ける神の子なり」

マタイ伝十六〇十六

一、「父なる神の生みたもうた独り子」

天にまします私たちの父なる神は、イエス・キリストの霊の父であると共にイエス・キリストの肉体の父である。すなわちイエス・キリストは霊としてすべての造られたものに先立って生れた「長子」である御方であり（コロサイ書一〇十五、ヘブル書一〇六、「教義と聖約」九十三〇二十一）、肉体を持つ者として「父なる神の生みたもうた独り子」である（「教義と聖約」二十〇二十一、二十九〇四十二、四十九〇五）。イエス・キリストは「聖霊」の子であると信じている人々があるが、イエス・キリストが「父なる神の生みたもうた独り子」

であつて「聖霊の子」でないことは、イエス自身が弟子たちにお言ひになった言葉「神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。……彼を信じる者は、さばかれない。信じない者は、すでにさばかれている。神のひとり子の名を信じることをしないからである」（ヨハネ伝三〇十六―十八）、および「父よ時がきました。あなたの子があなたの栄光をあらわすように、子の栄光をあらわして下さい」（ヨハネ伝十七〇一）等から明らかである。まことにすべての事は「聖霊の力」によつて行われる。イエスがこの世へおいでになったのも「聖霊の力」による（「救いの教義」第一卷十八頁参照）のであるが、イ

の子」としてこの世へおいでになった。

「わたしが父のみもとからあなたがたにつかわそうとしている助け主」（ヨハネ伝十五〇二十六）、「わたしが去つて行かなければ、あなたがたのところに助け主はこないであろう。もし行けばそれをあなたがたにつかわそう」（ヨハネ伝十六〇七）というイエス御自身の言葉によつて、イエス・キリストは「聖霊」よりも大きい御方であり（「救いの教義」第一卷十八頁参照）、またヨハネ伝十四章二十八節にあるイエス御自身の言葉から「父なる神」はイエスよりも大きい御方であることがわかる。まことにイエス・キリストは「父なる神の生みたもうた独り子」である。

またイエス・キリストが何人かひとの生れ変り（転生）であるという説を為す人々もあるが、予言者ジョセフ・スミスは「転生の教義」をきびしく排撃している（「予言者ジョセフ・スミスの教え」一〇四頁参照）。イエス・キリストがこの地球へ来る前に「父なる神」の命によつて世界を創造したもうたのは、霊体でおいでになった時のことであつた（「救いの教義」第一卷十八頁、ヨハネ伝一〇一―十四、ヘブル書一〇一―四参照）。

二、イエス・キリスト降臨の予言

創世記第四十九章にはアブラハムの子であるイサクの子ヤコブがその子ら呼び集め「後の日に、あなたがたの上に起ることを告げましょう」と言つてその子らに語つた言葉が誌してある。その第十節にヤコブはその子ユダを祝福して「つえはユダを離れず、立法者のつえはその足の間を離れることなく、シロの来る時まで及びであらう。もろもろの民は彼に従う」と言つてゐるが、この「シロ」とは誰のことを言つてゐるであらうか。「シロ」とはイエス・キリストにほかならない。ユダはキリストの時代まで「立法者のつえ」を保持してゐた。

エジプトへ売られ、後に「エジプト全国のかさ」となったヨセフは、モーセがイスラエルの人々をエジプト人の束縛から解放して約束の地へ導いて行くことを予言した。その予言の中でヨセフは「神必らずわが父ヤコブのイスラエルと名づけし汝らに（シロと呼ぶる救世主にあらざる）一人の予言者を起したまわん。この予言者は汝らが束縛の時代にある時、わが民を解き放

つべし」（ジョセフ・スミス改訳聖書、創世記五十〇二十四）と言つてゐる。

また予言者イザヤは、イザヤ書第五十三章に於てキリストの生涯を予言してゐる

（「救いの教義」第一卷二十三頁参照）。そ

の中にある「彼が自分を、とがの供え物となすとき、その子孫を見ることができ、その命をながくすることができ」（イザヤ

書五十三〇十）という言葉を、モルモン経

の予言者アビナダイは明瞭に註解して「主が降臨なしたもうたことを予言したすべて

の聖い予言者の言葉に聞き従ひ、主がその民を贖ひ救いたもうことを信じ、贖ひ救わ

れる時に自分の罪が許されることを信じて待ち望む者は、みな御子の後裔であつて神

の王国を嗣ぐ者となる」（モルモン経、モ一サヤ書十一）と言つた。またベンジャミ

ン王（モルモン経、モ一サヤ書五〇七）は「お前たちの結んだ誓約のためにお前たち

はキリストの子と呼ばれ、キリストの息子や娘と呼ばれる。それは今日キリストがお

前たちの精神を新たに生みたもうたからである。お前たちはキリストの御名を信ずる

から自分の心が改まったと言う。従つて、お前たちはキリストにより生れてその息子

や娘となった」と言つた。ベンジャミン王の言葉の中にあるような誓約を結ぶ者が「その子孫」であり「後裔」である。（「救いの教義」第一卷二十六頁参照）。

三、人間の弁護者であり神と人間との「仲立」であるイエス・キリスト

アダムがエデンの園に居た当時、アダムは「父なる神」と共に居た。アダムは「父なる神」の言葉を学び、われわれが此世の父をよく知つてゐるように「永遠なる父なる神」をよく知つてゐた（「救いの教義」第一卷二十六頁）。アダムは禁断の実を食つた後にイヴと共にエデンの園を追われ、同時に「父なる神」の前からも追い出された。アダムは律法を破つたために追放されて霊の死を受けた（「教義と聖約」二十九〇四十一）。すなわち神の前から締め出されたのである（「高価なる真珠」モーセの書五〇四）。

イエス・キリストは此世へ来て、アダムの子孫であるわれわれ人間のために弁護をして下さり、また人間と神との間の「仲立」として神にとりなしをして下さつてゐる（ロマ書八〇三十四、ガラテヤ書三〇十九・廿、テモテ前二〇五・六、ヘブル書七〇二十五、ヨハ

ネ第一書二〇一）。イエス・キリストは在世の当時、弟子たちのために度々「父なる神」に嘆願をなさったが（ルカ伝二十二〇三十一—三十二、ヨハネ伝十七〇十一—二十六）、そのように今でも神と人間との間に立って嘆願をして下さっている。

四、旧約聖書の神エホバーイエス・キリスト

アダムが「墮ち」てからこのかた、すべての啓示は旧約聖書（一九五五年改訳以前の）にエホバとしてあらわれているイエス・

キリストを通して人間に与えられた（「救いの教義」第一巻二十七頁参照）。旧約聖書の中でアブラハム、ノア、イノク、モーセその他のすべての予言者と語っておいでになる神はエホバである。この神こそ、エジプト人の束縛からイスラエルの民を解放し、また「モーセの十誡」を与えた後にこれを成就したもうた「イスラエルの神」であり「イスラエルの聖者」である御方、イエス・キリストである（「救いの教義」第一巻二十七頁、モルモン経ニーフアイ第一書十九〇十、ニーフアイ第三書十一〇十・十四、十五〇二—九参照）。

アダムが「墮ち」てから、「父なる神」は御子を人間にひき合わせたり、御子の証人に立ちたもうときのほか、自ら親しく人間に現われたり語ったりしたもうことはない。一九五五年改訳聖書には「神を見た者はまだひとりもない。ただ父のふところにいるひとり子なる神だけが神をあらわしたのである」（ヨハネ伝一〇十八）としてあるが、ジョセフ・スミス改訳聖書には「神が御子の証人に立ちたまひしときのほか、神を見たる者いまだ一人もなし」（ヨハネ伝一〇十九）となっている。

また一九五五年改訳聖書には「わたしは主である。わたしはアブラハム、イサク、ヤコブには全能の神として現われたが、主という名では（わが名のエホバのことは）改訳以前の旧約聖書）自分を彼らに知らせなかった」（出エジプト記六〇三）としてあるが、これは創世記十五〇七、廿四〇七、廿七〇廿七、廿八〇十三に見えている言葉と矛盾すると解せられる。

ジョセフ・スミス改訳聖書には「われアブラハム、イサク、ヤコブに現われたり。われは主なる全能の神、主なるエホバなり彼らわが名を知らざらんや」（出エジプト

記六〇三）となっていて完全に矛盾がとり除かれて（「救いの教義」第一巻二十七頁参照）。

五、父としてのイエス・キリスト

イエス・キリストは「父なる神の生みたもうた独り子」であるが、啓示を与える場合「父なる神」の代りにあたかも「父なる神」のように語りたもうことがある。たとえば「教義と聖約」第二十九章一節では「イエス・キリスト、汝の贖い主、かの大いなる『われあり』の神、その慈悲の腕汝の罪を贖いたる神の声に耳を傾けよ」と自らのことを言っておいでになるが、同章の終りの方四十二節では「されど見よ、われ汝らに告ぐ、われ主なる神は悔改めとわが生みたる独子の名を信ずる信仰による贖いとを宣ぶるために天使を遣わすまで……」と「父なる神」に代って言うておいでになる。

またイエス・キリストは創り主として「天地とそこにあるすべてのものの父」（モルモン経イテル書四〇七、アルマ書十一〇三八・三十九、モーサヤ書十五〇四）であり、また福音の律法と儀式に従って救われる者たちの「父」である。「すべてわが福音を受け

入るる者は、わが王国に於てわが息子わが娘なればなり」(「教義と聖約」廿五〇一)。またイエス・キリストは「父なる神」から権能を授けられた故に「父」である。このように「父なる神」は御子にその御名を名乗らせたまい、イエス・キリストは「父なる神」の御名によって語り、導きとめぐみを施したもうた(「信仰箇条の研究」附録六一二—六二六頁参照)。

六、イエス・キリスト復活して「完き」を得たもう

「救い主」イエス・キリストはこの世へおいでになる前に「一人の神」であつたので、この世へ来る時には「神の身分」を具えておいでになった(「救いの教義」第一卷三十二頁参照)。しかし、この世の生活に關するかぎり、イエスも人間の小兒たちと同じように出発して知識に知識を加えたもうたと思われる。聖典には「イエスはますます智慧が加わり、背たけも伸び、そして神と人から愛せられた」(ルカ伝二〇五十二)、「彼は御子であられたにもかかわらず、さまざまの苦しみによって従順を学びそして完き者とされたので」(ヘブル書五

〇八・九)、「彼は始めに完きを受けずして絶えず恩恵に恩恵を加えられ、ついに完きを受けしなり」(「教義と聖約」九十三〇十三)と見えている。

明らかに、イエスは十二才になるまでに「父なる神」のことに就いて多くの事を学び知つて居られたにちがいない(ルカ伝二〇四十二—五〇)。この知識は啓示と諸天使の訪れその他の方法によって得られたにちがいないが、またこの世の生活に關するかぎり、「教訓に教訓、規則に規則」(イザヤ書二十八〇十)をつみ重ねて得られたにちがいない。イエスが「天の父なる神」と折々交通して居られたのはもちろんのことである(「救いの教義」第一卷三十二頁参照)。

「救い主」も最初から「完き」を得ておいでにならなかつた。復活をして「復活体」を得た後に「天に於ても地に於ても一切の権能を授けられた」(「マタイ伝二十八〇十八)のである。イエス・キリストはこの地球を創造する権能を持ちたもう神であり、また「父なる神の独り子」であつたがそれでも復活体を得て始めて「完き」を得たもうた。神の誠命を忠実に守つて「神の子」

となるべき人々についても、これと同じく「教訓に教訓、規則に規則」をつみ重ねて行かなければ、ついに「完き」を得ることはできない(「救いの教義」第一卷三十三頁参照)。

余 録

「聖徒の道」十月号の余録に、創世記第六章六節の「主は地の上に人を造つたことを悔いて、心を痛め」(一九五五年改訳、旧約聖書)という聖句は、民数記第二十三章十九節にある「神は人のように偽ることなく、また人の子のように悔いることもない」(一九五五年改訳、旧約聖書)という聖句と矛盾していると書いたが、サムエル記上第十五章三十五節にも「しかしサムエルはサウルのために悲しんだ。また主はサウルをイスラエルの王としたことを悔いられた」(一九五五年改訳、旧約聖書)という聖句が出てくる。このところにはジョセフ・スミス改訳聖書ではどうなつてゐるか調べてみると「それでもサムエルはサウルのために悲しんだ。而して主はイスラエルの王にしたサウルからその王国を奪い取りたもうた」(サムエル前書十五〇三十五)となつていて「主は……悔いられた」という点が改められている。

伝導強調特集



『全世界を^{めぐ}巡りて凡ての^{つく}造られしものに福音
のべつた
を宣伝へよ。

信じてバプテスマを受くる者は救わるべし、
されど信ぜぬ者は罪に定められるべし。』



＜イエス漁師を召し給う＞

〈特集記事 I〉

「全世界を巡^{めぐ}りて凡^{すべ}ての
造られし者に、
福音を宣^{のべ}伝えよ。」

大塚 昌治

(編集長)

イエス・キリストは伝道を始められる時に十二使徒と七十人を任命し給い、次の如く云われました。

「……イスラエルの家の失せたる羊にゆけ。往きて宣べつたえ『天国は近づけり』と言え。病める者を医し、死にたる者をよみがえらせ、らい病人をきよめ、悪鬼を逐いだせ。価なしに受けたれば価なしに与えよ。」
(マタイ伝第十章六節～八節)

主は七十人たちを「自ら往かんとする町々所々へ」、「二人づつ」遣わしました。彼らは伝道に成功してよろこび帰り「主よ、汝の名

によりて悪鬼すら我らに服す」と報告しました。

(ルカ伝十章一節～二十節)

しかし、最初のこの伝道もイエスが復活されるまでは「イスラエルの家の失せたる羊」に対してのみおこなわれましたが、復活後使徒たちに「全世界を巡りて凡て造られし者に福音を宣べ伝えよ。信じて、バプテスマを受くる者は救われるべし、然れど信ぜぬ者は罪に定めらるべし」(マルマ伝第十六章十五節～十六節)と云われました。

この時から福音のおとづれは世のすべての人たちに宣べ伝えられるようになり、イエス・キリストの神権時代に於ける伝道事業は、著しい発展をとげるのです。

ペテロ、ヤコブ、ヨハネを中心とした伝道はパウロの働きでローマ帝国にまで広められここに於て大きな成功を収めました。しかし成功はしましたが、いかに伝道というものが生命をかけてなさねばならぬ、重大なる仕事であるかということは、石によって殺されたステパノやさかさまの十字架によって殺されたペテロやその他多くの殉教者たちの血の犠牲によって明らかにされました。

時と所は異なるが、アメリカ大陸に於ても火あぶりによるアビナダイという尊い犠牲者を出しました。この殉教者はたった一人アルマという人を改宗させましたが、この一つぶの種は大きく実をむすび、アルマの息子のアルマの時代にはそれこそ数えきれない程多くの人がバプテスマを受けて教会の会員になりました。有名なベンジャミン王の孫であり、モーサヤ王の第一王子であるアンモンは王位をすててその兄弟たちと敵国であるレーマン人たちの中に伝道におもむき、奇跡的な成功を収め、改宗たちからまるで天使のようにあつかわれました。

「ごらん。私たちはすでにレーマン人の中に来て、身に迫る苦難に堪え、あらゆる欠乏を忍び、世の人々の慈悲ばかりでなくまた神の憐みにも頼って、一軒一軒めぐって歩き、レーマン人の家へ入って教えを伝え、道ばたで、山の上で、神殿でまた会堂で民に道を伝えた。また一方では、追い出され、あざけられ、つばを吐きかけられ、顔を打たれ、石で打たれ、また捕まって強い縄でしばられ、牢屋にも入れられた。しかし神の大能と智慧とによって私たちは再び

救われた。私たちは自分の働きの結果、できるならば一人でも救うことができようかと思って甘んじてあらゆる艱難を身に受けたそして私たちは、もし私たちのために多少でも救われる人があったならば、この上もない喜びであると常に思っていた」

(アルマ書二十六章二十八節〜三十節)

宣教師たちにはレポート・ミーティングという集りがありますが、多分それと類似した会でありましょう。アンモンは力強く、彼らの伝道を語り、彼らの受けた祝福を教え直しました。右に引用したものはその一部分ですが、宣教師の仕事がどんなものであるかという事と、立派な宣教師の心がまえがどんなものであるかという事がよく理解出来ます。

一八三〇年四月十一日、それは末日聖徒イエス・キリスト教会が組織されて最初に迎えた安息日でした。この日オリヴァ・カウドリは公式に説教をして、我々の時代に於ける宣教の仕事の口火をきったのです。六月の初旬になると予言者ジョセフ・スミスの弟であるサムエル・ハリソン・スミスが最初の伝道旅行に出發しました。引きつづいて多くの人たちが宣教師として任命され、米国東部、カナダ、南部の各州に派遣され、各地で支部を組織しました。みなイエス・キリストの時代と同じように二人づつ召されて旅立ち、アメリカ・インデアンすなわちレーマン人たちにたいしても福音の種はまかれ始めました。特にオリヴァ・カウドリとパーレー・P・プラットはミズリー州西部のインデアンに伝道するために送られました。トーマス・B・マーシュ、エズラ・サイヤー、ノースロップ・スイート、ザイバー・ピターソン、オ

(三四三頁につづく)



伝道のよろこび

梶山克宏 (宣教師)

「ああ私が天使になって私の願いを達する事が出来たら善いものを、私の願いとは出て行つて神のラッパのように地を震わせる声で話し、万民に悔い改めをすすめることである」(アルマ29・1)

アルマの願いは万民に悔い改めをのべて神の御言葉を伝えることでした。

私もアルマの様でありたい……

神が生きて在しますことを確信している人なら誰でも伝道したいと望むにちがいありません。福音の幸せを知っている人なら、そのよろこびを人々にも与えようと考えるにちがいありません。そしてこのこと程私達を刺激し鼓舞する物はないと知っているでしょう。

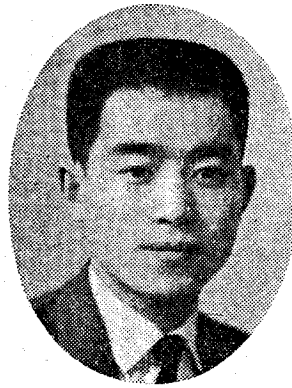
「伝道のよろこび」私も真実この言葉を味わっております。

私の最初の任地は富士のみえる甲府支部でした。とに角無我

夢中でした。初めて街頭伝道、個別訪問に接する時、宣教師であると云う自覚が自分を支えてくれました。小さいながら家庭的な甲府支部は、私の伝道のよろこびにプラスするものでした。しばしば見聞するにがい経験、しかしそうした中にさえよろこびがあるのです。道を歩む時、電車、バスに乗る時、食堂にいる時誰かが私たちの音ずれを待っているのです。宣教師は機会を与えねばなりません。ここで「私は誰であるか」といつも記憶せねばならぬのです。宣教師なのです。証詞と音ずれを毎日のべる事の出来る私は幸いです。人々の生活に燈をとすだけでなく己れの光も明るさを増しているのです。伝道を通して知るよろこびは、これだけではありません。あなたは何人の友を持っていますか？数えあげてごらん下さい。千人の友を持っている人……それでも少いじやありませんか！私たちは福音を通して真の友を作る機会を持っているのです。私たちは伝道を通して色々の人々に接します。そして色々な人々の境遇をおぼえることが出来るのです。そして自身をみつめるとしたら、伝道は又それをも与えてくれるのです。あなた方は新しい事項について先生か

ら一生懸命学び取ろうと眼を輝かしている学童をみたことがあるでしょう。そして学童がそれを理解してよろこび勇んでいるさまを görün になったこともあるでしょう。その時先生はどうでしょうか？学童のよろこびをみてそれ以上の満足とよろこびを感じるにちがいありません。福音を教えるよろこびも同様です。信仰を日に日に強めている人々を目の当りにみるのです。生きる目的をつかんだ人たち罪の許しを得て幸福を味わっている人たち。努力に努力をかさねて真理探究に力をつくしている人たち。みな彼らは宣教師から導きを受けたのです。私もかつて宣教師から教えを受けたのです。人々によるこびを与えるだけでなく自分自身もよろこびを受けるのです。もう一つのよろこびはしばしば感じることの出来る聖霊の導きです。小さな愚かな私に聖霊の助けなしに何が出来るでしょう。伝道を通してのみ経験できるこの力とよろこびは宣教師する私たちの特権です。私たちに最も価値のあること……それは今の代の人々に福音をのべつたえることであります。神から警めを受けた私たちはその隣人を警む責任があります。神から与えられたこの機会をのがしてはなりません。己が口を開くのです。私

たちの弱さも神の御前にへりくだるなら強くなるのです。神は私たちのために道もそなえて下さいます。「私は誰ですか？」今から私たち一人一人はモルモンの宣教師であるべき



です。モルモンの宣教師として誇りと自覚が私たちを助けます。聖霊が導きます。神が助けます。恐れるものは何もありません。

伝道を通して得る証詞は、すばらしく尊いものです。

私は今、東京北支部で、神の御言葉を広め神の御国建設に力をつくしております。今日という日はすでに終りかけています。明日という日もすぐ終ってしまうでしょう。一刻一刻が神によるこびれる時でありたいと願うのです。

腹中を慈愛にあふれしむべし、絶えず徳を以て汝の想いをかざるべし

(三四一頁よりつづく)
ルソン・フラットという優秀な宣教師たちがその頃召されています。

一八三二年の終り頃、主は伝道しているすべての宣教師に対して帰還を命じられ、より大きな光明と真理とを授けられました。伝道の仕事に關してより多くの力と知識とを与えられた宣教師たちは喜びいさんで再び任地におもむきました。この時、彼らは一つの誠命を与えられました。

「すなわち汝ら互いにこの王国の教義を教ゆべし。汝ら熱心に教えよ、さらばわが恩恵は汝らに伴い、かくして汝らの理解する必要がある理論と原理と、教義と福音の律法と、神の王国に就けるすべての事は更に完全に教えらる。——中略——これ、汝らがわが汝らを召したる天職とわが汝らに委任したる使命とを全力を尽して遂行するため、われ再び汝らを遣わす時に汝らすべての事に用意あらんためなり。

見よ、われは民に証し民を警めんため汝らを遣わせり。されば、その警めを受けしことあるすべての人はその隣人を警むる責任あり。ゆえに人々言逃れることなし。罪は人々自らの頭の上にあり。」

(教義と聖約八十八章七十七節八十二節)

心から柔和に、心から真面目に出で
きて、イエス・キリストと、かれが十
字架にかかりしことを宣べよ。しかし
て、他人とその持てる信仰または信仰
体系のために論争することなくして確
固たる方針をつづけよ。われこのこと
を誠命によりていう。すべてこれを守
らざるものは、その頭上に迫害を招く
べし、されどこれを守る者は常に聖霊
に満されん。

われこれを予言として宣言す。

ジョセフ・スミス



＜特集記事 III＞

非専任宣教師に

召されて

功刀えい子

(東京北支部)

聖徒の道を通して伝道部の兄弟姉妹
の前に証詞をする機会を与えられまし
たことを心から感謝します。

私は去年の五月両親の希望で家族と
共に生活するために山梨に帰りまし
た。安息日を守ることにについてはた
たびの帰甲で、甲府には小さいけれ
ど、すばらしい支部のあることを知っ
ておりましたし、両親も心よく承諾し
てくれましたので、少しも心配してお
りませんでした。でも、それが実際問
題となった時、親がかりの私には悩み
になりました。私が信仰生活に入った
ことを家族の者は何か恥かしいことの
ように思っていたからです。私はだん

インタビューを受けたのです。小さいこと
でしたけど一つの経験を通して神の愛に触
れ証詞を強めていた時でもありましたの
で、自分の未熟さをも顧みず喜んでお引
受け致しました。

週二回のトレーニングを続けて、十一月
の第一週の日曜日に聖任され非専任宣教師
としての生活が始まったわけです。

この召しをお受けするにあたって私に
は、一つの不安がありました。あまりにも
自分に福音に関する知識のないことであり
ました。でも最初に集会を持つ約束をした
方を通して与えられた経験はこの仕事をさ
せて頂く上に大きな自信を私に与えてくれ
ました。決して知識によって伝道するので

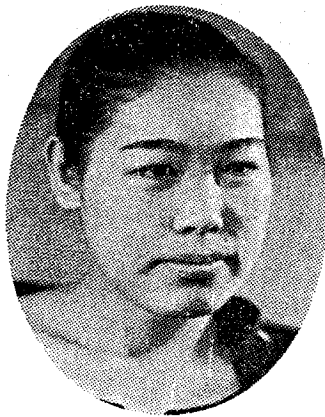
だん日曜学校にも出席す
ることが出来なくなり、
そのことでたびたび主に
祈りました。それから数
ヶ月たって、何か導かれ
るものを感じて再び北支
部にもどり、またそうし
て間もなく、前大塚支部
長からこの召しに関する

はなく、聖霊の導きによってのみ真の改宗は出来ないと思われ、教えられたからです。この経験は実に神は生き給うて、私たちの身近にあり必要な導きを与えてくれるという強い証詞となつて、問題のある時、いつも励ましと勇気を与えてくれます。現在その時の方が活潑な姉妹として働いていてくれる姿を見る時、小さいけれど素晴らしい仕事をした喜びに満されるのであります。

私たちパートタイマーは家庭集会を持つことを仕事としています。私と同僚は勤め先の寮にいますので、定例集会の開かれる日曜日と木曜日が集会を持てる日です。木曜日はMIAの集いの始まる前に二つと、日曜学校の始まる前に八時半から三つ。午後は二つ持つ予定で計画をして努力しています。その他の日は、人々が一日の勤めを終えて家路を急ぐ頃、街角に立ってチラシ配りを致します。チラシ配りではそれぞれエピソードを持っています。交番の前で平気で始めてオマワリさんに呼ばれ、お目玉を頂いたり、頭の上にこの附近でチラシを配ってはいけないと大きな張紙のしてある下で配って、あわてて逃げ二人で思わず心

臓をおさえあったり。街頭伝道も、また楽しい、また大切な伝道時間であります。私たちは警察署から許可書を頂いている場所で毎日曜日行い、日曜日は食事をする時間も持てないこともしばしばであります。

街頭伝道はとても勇気のいる仕事です。でも神の存在と福音に対する確信がいくじなしの私に勇気を与えて、明日もまた、私たちの



働きを待つ多くの人々の中に立たせるのです。私がこの教会を知った動機は平凡なものであります。モルモン教会の家族の小さな女の子と友達になったことからでありました。伝道の仕事を通して、今更ながら神の愛の偉大さに驚いています。神はすべての人々にその愛に触れるチャンスを与え、私たちにその愛に召しになりました。私は自分が小さなチャンスを与えられたことから現在の喜びを知つ

たように、人々にもチャンスを与える道具として、残された任期を悔のない伝道をしたいと願っております。私たちの望んでいた日本人による地方部長会が東中央地方部に組織されて今こそ！このモルモン教会の大きく発展する時であると信じています。私は愛する兄弟を伝道に出し共にこの機会に恵まれたことを感謝しています。

私はこのキリストの福音に対し証詞を持っています。それが真実であると確信しています。イエスがキリストであり、キリストによらなければ救いにあづかる道のないこと、ジョセフ・スミスが確かに神とイエスキリストにまみえて、その基の上に建てられた、唯一の神権を持った教会であることを証詞します。真のイエス・キリストの教会は常に神からの啓示を受ける予言者によって導かれるものであり、マッケイ大管長は真に現在の時代の唯一の予言者であること信じ、全ての宣教師が証詞されるのと同様に、私も何も変ることの出来ないすばらしい時間を過していることを証詞して、全てを感謝しながら救主イエス・キリストの御名により申し上げます。

アーメン



—恵みの機会—

非専任宣教師—

雨 宮 昭 子

(東京北支部)

私の伝道の仕事は一九六〇年、すなわち今年の六月十九日に按手聖任されて出発致しました。

今まで甲府の家で母や妹たちと共にモルモンの家庭という恵まれた生活をして神の愛におぼれ、自分自身の反省を全くせず定期的に集会に出席していた私がMIAのジュニアの教師の責任を与えられ、他の会員の方々の助けでやっとその責任を果していた時、ふとした機会から自分を反省し、私の信仰というものに全く根がなくなっちゃって風が吹くとすぐ倒れてしまいそうな弱さで、隣りに大きな母という木があったので今まで倒れないできたようなものの、いつまでも根のない生活をしてはいけないうると思ひ、一大決心をして東京に出て来て、新しい勤め先をさがしてやっと二月という

時のことなのでほんとうにとまどっていました。

支部の人々の名前をまだ完全に覚えられない私、また、北支部の会員の方々も私という人間が北支部にいるということを知らない会員の方々もいらして、珍事をたびたび引きおこしてしまいました。

一人の姉妹の方に初めていらしたんですか、私はこういう者ですけどといって私の名刺を出してしまったり、日曜学校が始まる前に、私が初めての人はいないか、きょろきょろしていると、一人の姉妹の方が私の方に来て、よくいらして下さいました。どうぞおかけ下さい、といわれた時には、全くあいた口がふさがりませんでした、幸いなことに私の同僚は同じ甲府出身の、又私が上京する際に非常にお世話になった

山本姉妹でしたので大変助かりました。そして知識不足の私ですけれど、神様の力を借り一生懸命しようと思ひ大変張り切り出発致しました。

しかし、私たちの伝道は最初の二ヶ月というものは全く苦難の期間でした。家庭集会をもっても一回又は二回で来てくれなくなってしまう、私たちの伝道の主体はチラシ配りが主になったようでしたが、ある木曜日他の宣教師より忠告されて、英会話にくる人々を案内するために五時半頃までに教会に行ってみると思ひがけず大勢の人々と約束をつくることになりました。そんな機会に調子が出てくると、私たちはとまる所を知らないように走り出した汽車のように急にいそがしくなり、二ヶ月前にコンタクトした方から突然、電話があり家庭集会をしてもらいたいなどといってきたり、日曜日から始まる一週間、月曜日を除いて毎日、日曜日などは朝八時半からほとんど一日、ともすると食事をするひまもないほどの忙しさですが、私たちは本当に楽しく苦しいと思ひたことは全然ありませんでした。会社の人々から、日曜日なんか一人でいる

とひまで困るだろう」といわれたので、私が教会の話をしますと、じゃあ、日曜日は普通の日より忙しいんじゃないか」といつて、今までに一日でもよいから今日は休みたいと思った日はなかったか」と聞きますので、日曜日が過ぎると、また次の日曜日が待ちどうしくて仕方がない」と返事する位に本当に喜んでこの仕事をしていきます。

現在、私たちが持っている家庭集会の求道者の方々は、本当にすばらしい方々で第四課で神の誠めのことを話した後、他の教会の人々がタバコや酒など飲んでいるさまや、他の教会より私たちの教会の戒律のきびしい点など指摘した後、今までどこかの教会に行きたいと思っていただけ、今、このモルモン教会を選んだことを大変うれしく思います」という言葉を聞き、私たちは本当にうれしい思いをしました。また、ある方は祈りをしている時に不思議な力に満たされ、自分がわからなくなったといつて、これからも、もっと勉強したいといつ

て下さったり、また私たちにとって初めての求道者である一人の方は私たちの決めたバプテスマの日に用事があって、これないというので、私たちは次週に決めておりました所、突然教会にいらしてせっかくバプテスマに対する準備が出来たのだから、いからと思ひ、用事は他の人に頼んできたから、今日受けたといつてきて下さり、十月九日無事バプテスマの式を終り、私たちの兄弟となつて下さったことなど、私たちの最初のあの苦難な期間など吹き飛ばしてしまつたように、私たちは毎日を本当に楽しくすごしております。またそれと共に私自身の信仰もだんだん根をしっかりと張つてきつたあることも喜びとなっております

甲府で街頭伝道を手伝う時、私には絶対話させないという約束済についていった私に、場所こそ違えど半年後に、大勢の人の前で、街頭の皆さん」と大声をはり上げている私を誰が想像したでしょうか？ 今、私は街頭における伝道で心から大きな声で叫びます。私たちはモルモン教会の宣教師でございます」と。もう私はどこに行つても、私はモルモンです」とすぐ口から出るようになりました。神様が私にこの伝道の機会を与えて下さいましたことを心より感謝し、これからもっと多くの人々にこの真の教会の教えについて、のべる機会がありますように神様に祈り、またプライス副伝道部長さんが北支部を訪れた際に、私たちに、ノアさんになりなさい」という言葉を思い出して一生懸命、種をまくつもりでおります。

最後に私は、この末日の世に神様の真の教会はこの末日聖徒イエス・キリスト教会のみであり、また、神様は真に生きていらっしゃるいまして常に私たちを導いて下さいますことを証詞申し上げ、また、この機会にこの話を述べる事が出来ましたことを深く感謝し、すべてイエス・キリスト様の御名によりて致しました。アーメン

見よわれは民に証し民を警めんため汝らを遣わせり

種播く者となろう

雄 正 部 渡

(東中央地方部評議員)

わが御父の国に、われの許に導きたる唯一人の人につきて汝らの悦び大いならば、汝らもし多くの人を導き来らばその悦びは果して如何ばかりぞや。(教義と聖約一八一―一六)

日々に種を蒔く善きに悪しきに、美しき讃美歌のメロディに、うっとりとしていた私の耳に、然らば汝ら種播く者の譬を、聴け。主の御声がささやいた。主はまた他の譬を示して言いたまふ。天国は良き種を畑にまく人のごとし。一九五〇年三月二十六日早朝、この聖句は深く私の心に刻み込まれた。

この聖句を幾度か心の内に繰返している時再び雷鳴の如く予言者エゼキエルの言葉が耳を打った。

然ば人の子よ、我汝を立てイスラエルの家の守望者となす。汝わが口より言を聞き我にかはりて彼等を警むべし。我悪人に向ひて悪人よ、汝死ざるべからずと言んに汝その悪人を警めて、その途を離るるように語らずば悪人はその罪に死んなれど其の血をば我汝の手に討問むべし。然ど汝もし悪人を警めて翻りてその途を離れしめんとしたるに彼その途を離れずば彼はその罪に死ん。而して汝は己の生命を保つことを得ん。

再び主の声が響いた。

見よ、われは民に証し、民を警めんため汝らを遣わせり。さればその警めを受けしことあるすべての人はその隣人を警むる責任あり、故に人々言逃れあることなし。

私は悔改めて鯨の腹から吐き出されたヨナのように立上った。私の隣人とは誰であろうか？ 電車で汽車で私の隣に坐る人は私の隣人ではなからうか？ おのれの如く、なんじの隣を愛すべし。それ以来いつどこにおいても、私の隣りに坐る人はもう私にとって見知らぬ他人ではなかった。たった一日でもバスで電車で汽車で私の両隣にはいろいろな人が坐った。始めの頃は何だかきまりが悪くてトラクテイニングの紙を出したりひっこめたりもじもじした。

なに故かく臆するか、信仰なきは何ぞ。弟子たちを警められた主の声が強く響いた。汝何故己が身を思うや、己が生命を救はんと思ふ者はこれを失ひ、我が為また福音の為に己が生命をうしなふ者は之を救はん。私はもうていさいなどかまっておれなかった。いつどこでどんな人が神の言葉を求めながら見つづけにおるかわからない。わが羊を牧へ。三度ペテロに念をおして、われに従へ。と言われた主のみ声。私は毎日隣に坐る人に必ず



日々に種を蒔く、善き
に悪しきに、畠地に、
あるいは風吹く丘に

紙片を渡した。気持よく受取ってくれるとほっとする。そして読んでくれると嬉しくなる。更に質問して来るとすっかり嬉しくなつて夢中で教会のことを話す。更に教会を訪ねてくれた時の喜びは到底口に言い表わすことが出来ない。いよいよバプテスマを受ける日が来た時、私たちの胸は冒頭の聖句の感激に高鳴るのである。

我に従ひきたれ、然らば汝らを人を漁る者となさん。今や主のみ声のはっきりとわかり、見よ、我は世の終まで常に汝ら共に在るなり、と言われた主と共に働く感激にひたるのである。けれどもこのような良き地に播かれることは何百回何千回に一回か二回である。召さるる者は多けれども選ばれる者は少し。あるときは差出した紙片を受け取らずに、そっぽ向く人、「私は自分の信仰を持っているから要りません」と断る人、「いらんお世話だ」と行ってしまう人、受取ったと思つたら、くしゃくしゃとまるめて踏みつぶす人、「キリスト教で世の中が救えますか、貴方たちは偽善者だ」挑戦して来る○○教徒、このような時、いつも私を励ましたのはパウロの言葉であった。主の僕は争うべからず凡ての人に優しく能く教え、忍ぶことをな

し、逆う者をば柔和をもて戒むべし。神あるひは彼らに悔改むる心を賜ひて真理を悟らせ給はん。

また私がパンフレットを渡したのをチャンスに逆に私を改宗しようと熱心に己が教義を説いて来る人、その時私の耳にささやくのは、やはりパウロの言葉であった。なんじらの衷には、主より注がれたる油とどまる故に、人の汝らに物を教ふる要なし。ただ私は聞き上手な人になるように努めた。又私はシユワイツァ博士が言った「要は教義上の問題でなく愛である」と言う言葉をよく覚えた。隣人と議論するより、先づ隣人を愛することである。自分が正しいと主張するより何か手伝うことである。こうして一年、三年、五年、十年とたった今日、私はいろいろな人と語り、いろいろな経験を持つことが出来た。そして何人かの人为主の御許に永えに兄弟姉妹として結ばれる仲となった。その中には私が隣に坐った人と話をしているのを聞いていて、わざわざ遠くから席を立てて求めて来た人もいる。真にどこに求めている人がおるかわからない。

また、十一弟子たちがオリヴ山上にのぼり主に謁えた時主は、されば汝ら往きてもろも

ろの国人を弟子となし」と言われたが私たちは幸に世界一の大都市でありまた、国際都市である東京に住んでいるおかげで世界中のいろいろな民が私共の愛する隣人として隣に坐る。

私はカトリックやプロテスタントのアメリカ人、英国人、ドイツ人、フランス人たちと親しく語り合うことも出来た。またギリシャ正教のロシア人は是非自分の家に遊びに来てくれと住所を知らせてくれた。先日の電車では日本人だと思って渡したら首を振る。中国語で話したらすっかり喜んで昨日台北から着いたばかりだと言う。台北にも私たちの教会があるからと教えていろいろ教会のことを話したらとても喜んで帰国したら是非訪ねて見ると言って降りて行った。

またあるとき、代々木の回教寺院に詣でる可愛らしいパキスタンの子供たちと東横線で同席したが、彼らがモルモン教の名を知っており、いろいろ熱心に質問してくるのには、ほんとに感心した。彼等の宗教教育がいかに徹底したものであるか驚かされた。

車中伝道において気をつけねばならな

いことが二、三ある。私の失敗を述べて御参考に供したいと思う。話に夢中になって自分の降りる駅を通過するのはまだよいが相手の人を乗越させてしまうことである。また決して大きな声を出さないこと。また車中パンフレットを配り歩く時はあらかじめ、車掌の許可を受けること。私は再三注意され、今度犯したら交通法規に従って下車させると警告されたので許可を受けることにしたが、隣の人に渡す位ならいちいち許可を受けに来なくてもよいですよと言われたのでその後その通りに実行している。

最後に私は私たちが主の誠命に従って主の僕として忠実に働らいておる限り、汝らと共に在るなり」と言われた主は常に私たちと共に在って私たちを守って下さっていると言う一つの証をさせていただき度いと思ふ。

もう七・八年前、仙台の公会堂で教会堂建築資金の為、マース伝道部長さんのお嬢さんのペギー姉妹とツーラ長老を招いて歌っていただきまた、玉生バレー団にも協力していただいた。その券を川内キャンプの一軒一軒を廻りながら売り歩いていた時、憲兵司令官の家に来たらちようどお昼休みで帰っていた司令官が出て来て、「お前は誰の許可によって

一軒一軒売り歩いてるか。直ちに帰り明朝十時憲兵隊に出頭せよ」と言い渡された。明朝十時私は緊張して法廷に立った。私の前に立った憲兵司令官は先づ私に挙手をもって偽りを言わざる宣誓をなさしめた。次いで再び「お前は誰の許可によってかかる行為を為したか」と問うた。暫し黙とうして立っていた私の耳に、

「おそろな、語れ、黙すな、我なんちと共にあり、パウロを励ました主の声が響いて来た。

「我が主イエスの命により」力強い言葉が私の口をついて出た。数分間直立していた司令官の顔がだんだんとほころびて行った。やがて向きを変えた司令官は其の部屋に在席した人々に向って「〇月〇日公会堂に於てバレー並に歌の催しがある。参観希望者は手を挙げろ」と問うた。十人ばかりの手が挙げた。再び私に向き直った司令官は「一等席の券を十枚欲しい。更にお前にこのキャンプ内の一軒一軒を売歩く許可を与える」

主は生き給う、主は私と共に働き給う。感激と感謝の涙が止めどもなく私の頬を伝わったのであった。

神の愛により

モルモンの家族へ

稲垣 高義
(東京北支部)



無上の喜びとしております。

留守だとか云って、何回かお断り

ある日、外人の方と日本人（福田真兄弟）の二人の方が訪問され、申しあげました。子供を北海道まで送って行ったらしい間に、神様についてのお話が申上げたいと云うことでした。私は仕事でしたので、台所にいた妻をよびました。妻はどうぞと云って二人の方を上にあげジョセフ・スミスのお話が始まりました。隣室から聞えてくるお話を、仕事をしながら聞いておりましたが、耳新しいことばかりで、気を引かれており、ますます十分間位で、次の訪問日の約束をされて神様にお祈りして読ん

で下さいと云って見神録とモルモン経を置いて帰えられました。今思えば誠に申わけないことですが、その時は本を売って歩いておるのだらう位に思っており、ジョセフ・スミスが神を見たなどと信じられませんでした。後で見神録を読みモルモン経を少しづつ読んでいくうちに、だんだんと興味が出てきてなるほど、思うようになってまいりました。その頃は、妻の弟の子供を預っており、忙しかうからとか

留守だとか云って、何回かお断り申しあげました。子供を北海道まで送って行ったらしい間に、三、四カ月は過ぎ、忘れかけた頃また訪問を受け、やっと三十三年六月十四日に、妻がバプテスマを受けることが出来ました。いつも、日曜学校にいらっしゃって下さいと、すすめられており、妻の按手礼のある十四日に始めて教会にまいり大変に感激致しました。大勢の方々より、にこにこして握手で迎えて下さったこと、按手礼の頭に手を置くこと、またその言葉の中で会員確認について、このことは天においても記され、このことは天においても記された。始めて接した雰囲気

の計画と、深い深い愛の恩恵を賜わっていることを知り感謝の日々を送らせて頂いております。弟姉妹の愛のもとに共に福音に、私共無智な者の一家の上にも、神

様の人類に対する偉大な救いの計画と、深い深い愛の恩恵を賜わっていることを知り感謝の日々を送らせて頂いております。弟姉妹の愛のもとに共に福音に、私共無智な者の一家の上にも、神

伸びゆくシオン

(伝導部 所在図)

巡りて凡ての造られしものに福音を宣伝せしむ

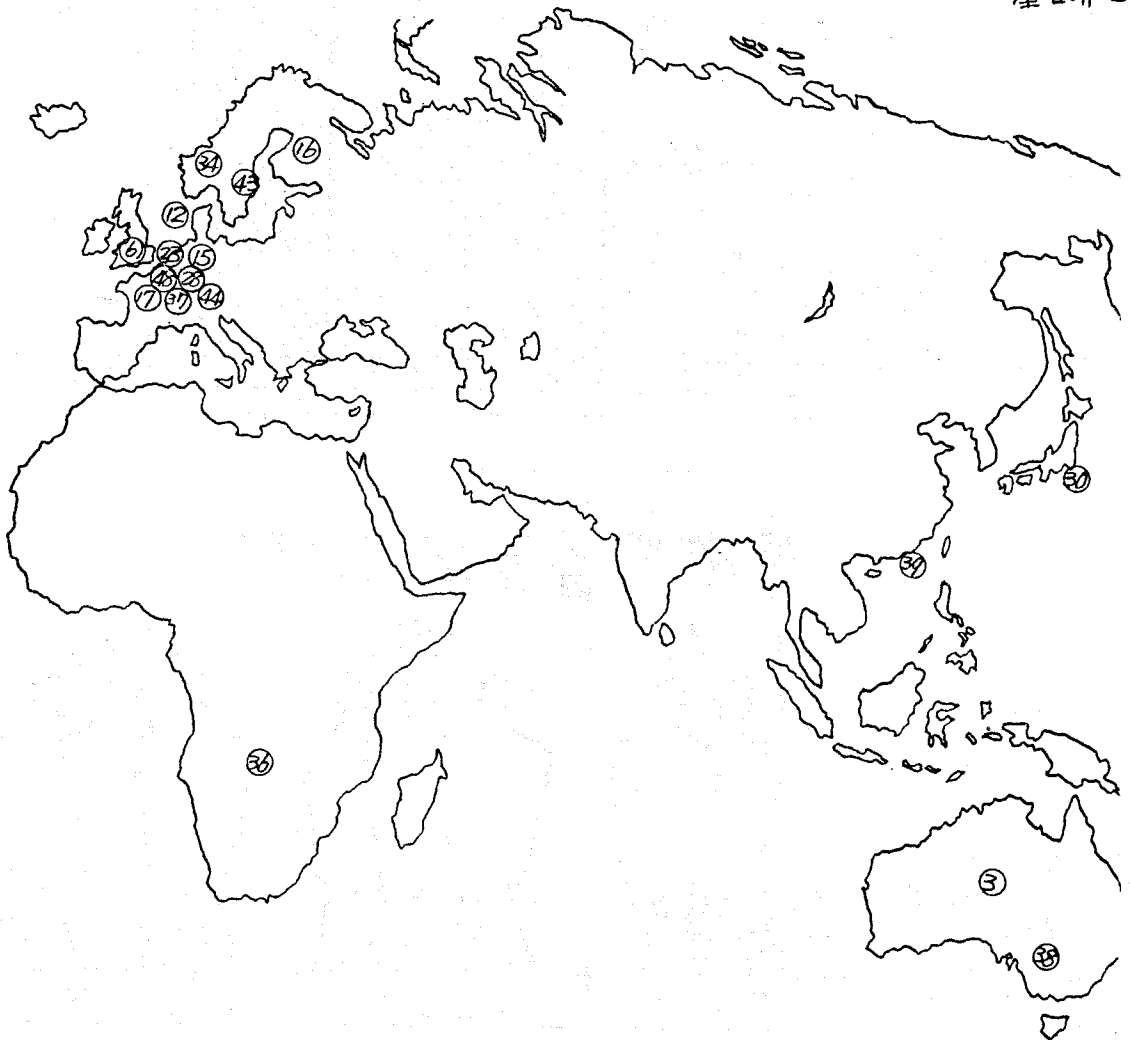


=1959年現在=

ステーキ部	290
伝導部	51
教会員	1,616,088人
(内訳)	
① ステーキ部	1,336,675人
② 伝導部	279,413人

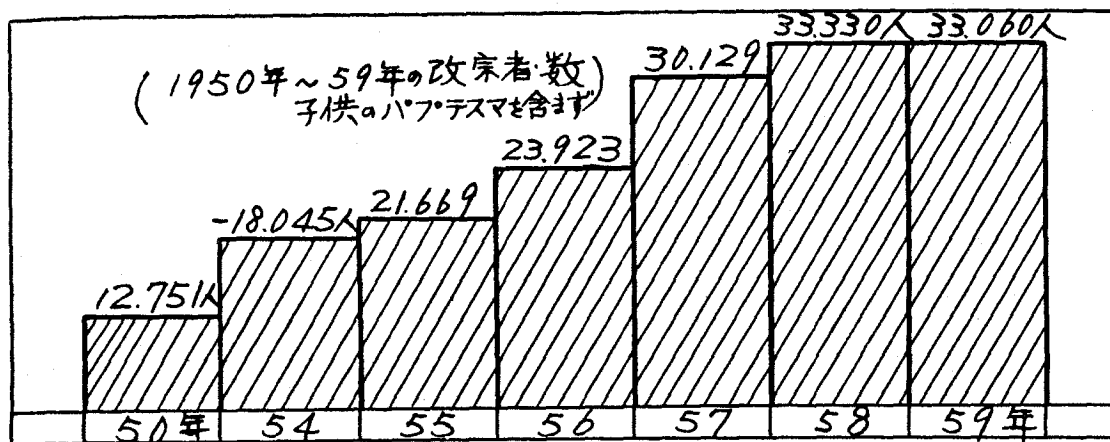
広がる伝導

...全世界を

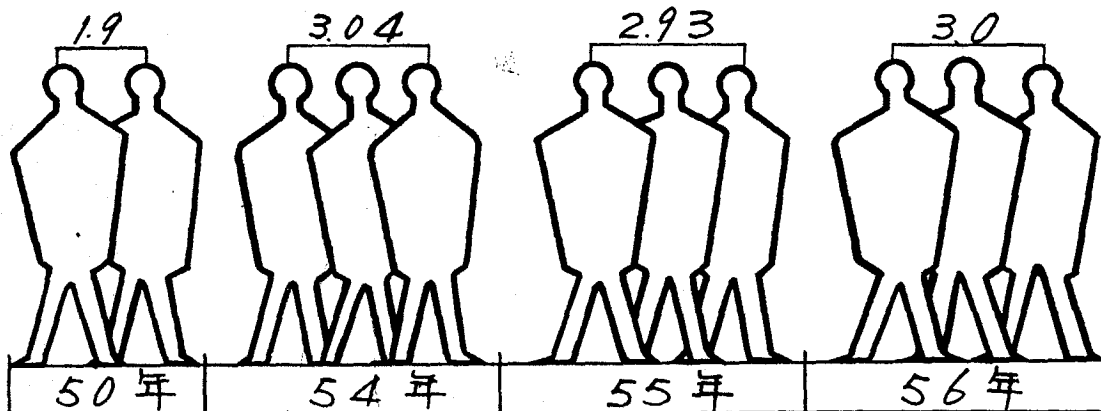


NO.	伝道部名	NO.	伝道部名	NO.	伝道部名
1	ペルー	18	タヒチ島	35	サモア
2	アルゼンチン	19	インディアナ州	36	南アフリカ
3	オーストラリア	20	テキサス州	37	南部ドイツ
4	ブラジル	21	ハワイ	38	南部オーストラリア
5	南ブラジル	22	メキシコ	39	南部極東
6	イギリス	23	ポーランド	40	ニュージーランド
7	カルフォルニア	24	マサチューセッツ州	41	ニューメキシコ
8	カナダ	25	ニュージーランド	42	テキサス州
9	ガテマラ	26	南ニュージーランド	43	スウェーデン
10	ヴァージニア州	27	ミネソタ州	44	スイス・オーストラリア
11	ミズーリー州	28	北ドイツ	45	トンガ
12	デンマーク	29	カルフォルニア北部	46	ウルガイ
13	ケンタッキー州	30	北部極東	47	モンタナ州
14	ニューヨーク州	31	北部メキシコ	48	西部ドイツ
15	ドイツ	32	イリノイ州	49	カルフォルニア
16	フィンランド	33	オレゴン州	50	カナダ
17	フランス	34	ノルウェー	51	コロラド州

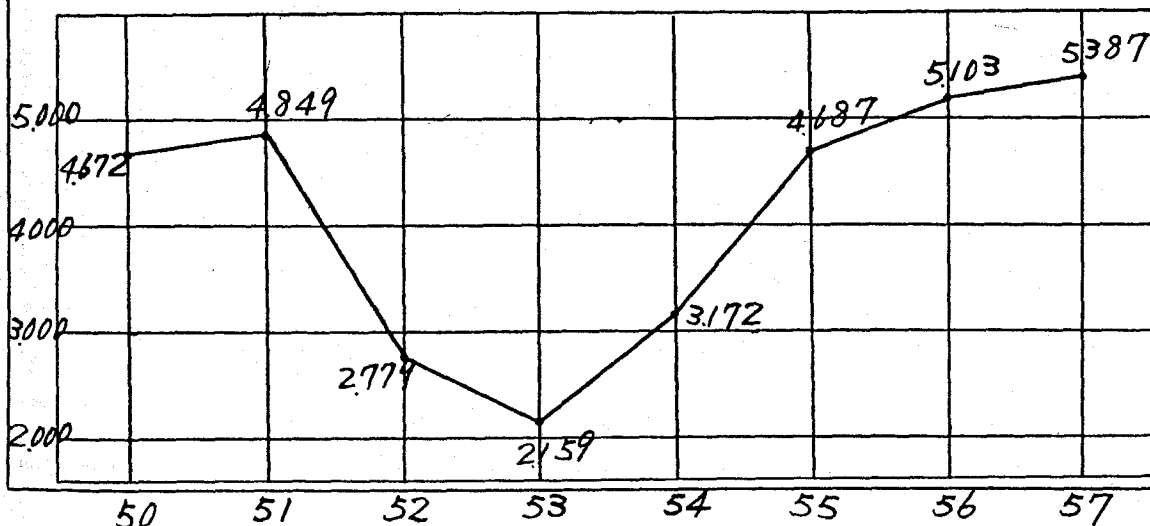
ステーキ部と全伝導部の統計



宣教師一人当りの改宗数 (外国伝導部)



宣教師数 (外国伝導部のみ)

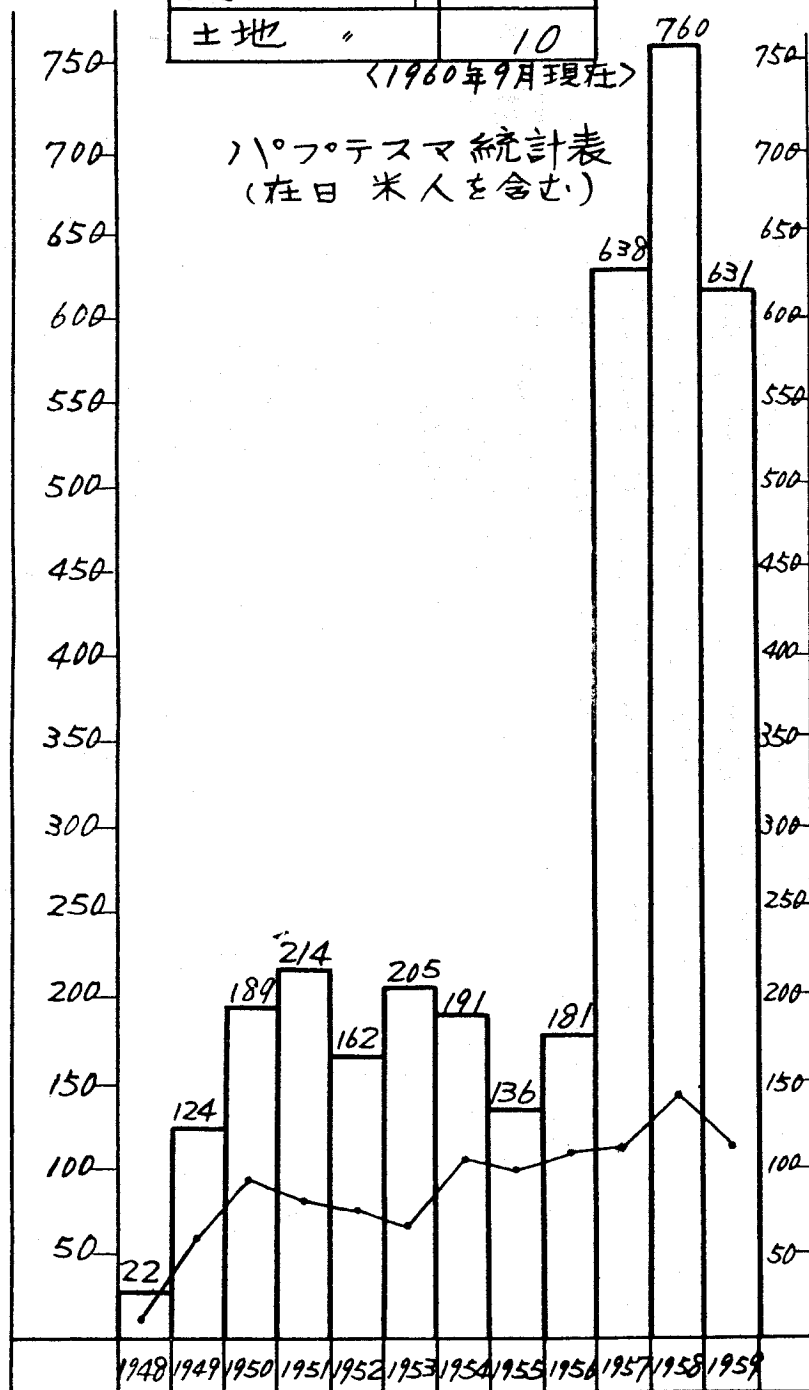


進展する 北部極東伝導部

会員数	3,750
アロン神権保持者	607
メルケゼデク	119
支部数	32
建物を有する支部	
土地	10

<1960年9月現在>

ハ・フ・テスマ統計表
(在日米人を含む)

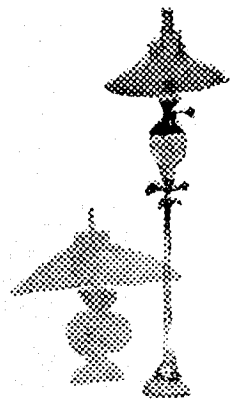


(棒線は年末における宣教師数)

『喜ばしき音信を』

われわれはいつも人々に宣べ伝えなければならぬ。福音、即ち大きな喜びの音信は、全人類の真の導きであり男も女も、この教えに従って生きる者はすべて最大の喜びと、心の満足とを得られるということ。

(デビッド・オー・マッケイ)



君の名は

モルモン宣教師

——トラクティングにて——

「ごめん下さい、私たちは末日聖徒イエス・キリスト教会の宣教師です」

挨拶をすませ、さて訪問の目的を告げようとした時その家の奥さんは

「私は神様を信じません」

と云って、宣教師の話をさえぎった。するとジュニヤの宣教師が突然に

「奥さん、私も神様を信じませんよ」

と云った。これをきいて奥さんがおどろくのは云うまでもないが、同僚宣教師の方

がもっとおどろいてしまった。

「熱心な宣教師だったのについに神を否定するようになってしまったか。あ、どうしよう。」

そこで

「どうして神を信じられないのですか」

ときくと、彼は平然として同僚の質問を無視し

「奥さん、貴方が信じられない神は、太陽であり火であり、山河である所の自然物でしょう。あるいは人間の手で造った偶像の神でしょう。そうでなかったら体なく手足なく感情もない神ではないでしょうか。」

同僚宣教師はやっとこの時になってこの宣教師がなにを云わんとしているかが解りほつとした。そして正しい神を信じていて熱心に伝道する様子をまのあたりに見る事が出来たので嬉しくなりました。彼は続けた、

「そのような神は私も絶対に信じません。しかし私は真実なる神は心より信じます。真実の神とは……」

その家の奥さんは今まで聞いた事のあるすべての神を否定するこの若い宣教師に非常に興味をもった。

「私は不合理な迷信的な神を今まで信じなかった。ところが私と同じようなすべての神を

信じないこの人はさらに真実の神があり、それを信じていると云う。一体今云った以外にどんな神があるのだろう」

ちよつと考えてみたが、わかるうはづがなかった。そこで宣教師を家にまねき入れたとくが行くまで二人の宣教師の話をきいた。

宣教師の話した神は末日聖徒の信じている——生ける真の神——手足、感情、骨肉の体を持ち全智、全能である愛なる神であった。

——車中にて——

七、八年前頃の日本伝道部にはパウロをおもわせるような熱烈な宣教師がいました。彼はどこから出るかと思われる程の大きな声でいつも説教をしますが、その論旨はきわめて哲學的、神學的でむづかしいものでした。それでいてけつして人の氣持をそらせない程、話術にも長けて居りました。

彼は輕井沢で開かれる宣教師大会に出席するため、同僚たちと一緒に東京の上野駅から信越線に乘車しました。途中、高崎駅から群馬に伝道中の宣教師ものりこんで来ましたから、どうしてもにぎやかになる

はずです。それにみなしばらくぶりの対面です。つもりつもった話に興がのるのは当然の結果となるはずですが、その日ばかりはそうわけなかったのです。

それは大声で前の席にいる年配の人に福音を説く、彼のパウロ長老がいたからでした。声が大きいので全車中の人が彼の話に耳をかたむけました。彼は話し続けついに、軽井沢についてしまったということです。

東京から一緒だった宣教師によると、東京を発つてすぐ始めたものらしい。そうすると五時間ぶつとうしで車中説教をしたことになるのです。

――帰還宣教師となつて――

宣教師たちは解任されて故郷の支部に帰つてくるといろいろの集会に引き出されて話しや証詞をするが、異句同音に、

「あれは、私の生涯で一番幸福な数年であった」

と証詞している。このように証詞をたてた帰還宣教師は何千という数にのぼっているが、それは己れの生命以上に尊い仕事にたづさわって来たもののみの知る大きな喜

びであると云えよう。

この帰還宣教師たちが、二年、三年とたつて一応の社会人となった頃の証詞はどうであらうか。

ここに昭和三十二年一月四日に開かれた日本人帰還宣教師の証詞会の記録がある。簡単にそのときの証詞を紹介してみよう。

「伝道中いろいろな苦勞をしいまだかつてなかった程の試練を神から与えられたと思つていたが、帰還後の試練はさらに大きく、きびしく人生の荒波の中に立たされました。殆んどの人が当面した問題それは就職、結婚についてでした。ある人は経済的に非常に困り、ついに教会に行く電車賃すらもなくなり、経験したこともない百姓の仕事や女中の仕事もやらねばなりませんでした。

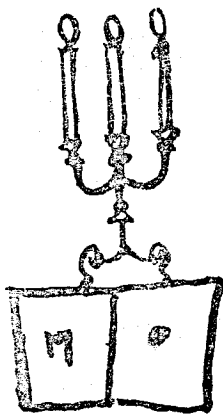
肉体的な苦痛はともあれ「神の仕事にたづさわっていた人が何故恵まれないのか」と云う異教徒の攻撃は、それは大きな試練でした。いろいろな苦難な道を過つて今ここに二年あるいは三年たった今日、出席者一人一人が強く証詞したことはみな恵まれて来ていること、『神は真実なれば、汝らを耐へ忍ぶこと能はぬほどの試練にあわせ給はず、汝らが試練を耐へ忍ぶことを得んためにこれと共にの

がるべき道を備え給はん』（コリント前書十章十三節）

という聖句を身をもって証詞する事が出来るということ。現在職場に於てモルモンであるが故に信頼され、特別視されていることと、神は生きて実在し給う方であるから、神の道に忠実であろうと努力する僕には必ず必要な恵みを下さり、また試練も与えられます。この福音を知ったこと、末日聖徒の名に加えられたこと、これは最上の喜びであり、この喜びを隣人にも分かち与えるように努力してゆきたい」（大塚）

君の名は

モルモン宣教師



＜求道者のためのよみの＞

ユタ物語

(2)

リーヴァイ・エドガー・ヤング

(七十人会最高評議員会々長)



○ユタ開拓者たち

六月に開拓団たちはブラック・ヒルスとフ
ォート・ラミに到着した。フォート・ブリッ
ジャーに於てブリガム・ヤングは猟師や探險
家たちから、大ソルト・レーク盆地に就て、
多くのことを聞いたが、何れも多かれ少か
れ、落胆させる知らせばかりであった。そこ
は長い間、北アメリカの温帯に属する不毛の
地として(ただグリース・ウッド(アカザ科
の灌木の一種)及びサルビヤだけが生え、山
犬とガラガラ蛇が開拓者たちに抵抗してく
る)知られていた。実際にインデアンたちは
遍く地を照らす大霊が遣わされたと宣言し
た。すべてこのような状態にもかかわらず開
拓者たちは山を乗越え、最後に移民峡谷を通
過して大ソルト・レーク盆地に到達した。ブ
リガム・ヤングは荒原を一望するや「正にこ
の土地である」と宣言したのである。

開拓者たちは一八四七年、七月二十四日、
に盆地に入り、山の溪流を転じて荒野に導入
した。彼らはファー・ウエストに於て既に、
アメリカ式灌漑を始めていたのである。中部
乾燥地帯に属していた、ユタはそれより、農
民たちの協力により灌漑の進展と共にその一

部が漸く耕作されたのであった。ユタの農民たちは終局に於て、狭小な土地に如何にして多数の人口を養わねばならぬかと言うことを知らされたのであった。

開拓団の最初の隊が到着してから一ヶ月以内にソルト・レーク市が測量され、今日米国に於ける唯一の美しい都市としての基礎が置かれたのであった。十エーカーの各市区劃が一・二五エーカーの各平等の八つの地区に分割されている。歩道には並木が植えられ、小さな溝が堀られて、山からの溪流が注がれている。小さな個々の家々には庭園が設けられ、花が植えられてある。各家は政府の単位となった。何となればユタ開拓者たちは市民として、又宗教的な律法の遵守者であるからである。郊外は昔のニューイングランドの耕地整理に準じて五、十及び二十エーカーの耕地を配している。馬鈴薯、とうもろこし、小麦などが最初の夏に蒔かれたが、その収獲の大部分が翌春の種蒔として保存されねばならなかった。ほんのわずかしは食用に供されなかった。これらの開拓者たちは各家を建て始めたが、そこはその子供たちにとって経済的、社会的、知的、宗教的中心となったのであった。人々は生活の為に戦い、彼らの労

苦と、崇高な神への信仰により不毛の処女地は開墾されて行ったのであった。ユタの開拓者たちの作業は並大抵ではなく、故セオドル・ルーズヴェルト大統領はこれに就て或時、次のように言った。

「この州に來た開拓者たち又その後彼らに次いで來た者たちは、少い労働を以て生産されるような、よい土地を入手することなく、最初荒原と言われた地を手に入れて、抽象的でなく現実に、荒野をばらの花咲く地となしたのであった。」

最初の開拓の団に次いで他のよく組織された一団が入殖し一八四八年の夏迄に約四千人の人が曠原を渡つてソルト・レーク盆地に入り、一年以内に繁栄した開拓地となった。そこを中心地としてブリガム・ヤングは全ワサチ盆地の開拓を指示し、間もなく北にも南にも活気ある町々が設けられて行ったのであった。一八五〇年迄には約一万五千の人がユタに入殖し、ソルト・レーク市は陸上によるカリフォルニア交易上の便利な中心地又は市場として又大平洋岸への旅程の食糧又は牛馬の補給地として重要性を加えて行ったのであった。

ユタの開拓者たちの社会の実生活に協力が

採り入れられた。男たちは峡谷に行き丸太小屋学校及び集会所を作る為に丸木を伐り又懸命に耕作し、又運河や溝を設置し、そのすべての作業に於てヴィスコンシン大学のエリ教授が定義した、経済的成果を得るには団結力たる一致した目的が必要である、を表明した。

○開拓団の在荷調べ

読者にこの昔の開拓団の一つがどのようなものであったかその見本を見せる為に私は、当時の雑誌の一つから引用して見よう。一八四八年に広野を渡った一団体には、六二三台の幌馬車、一、八九一人の人間、一三二匹のラバ、四四匹の馬、二、〇一二匹の役牛、五四匹の猫、一三四匹の犬、五個の蜂の巣箱、一匹のリス、九八三匹の牡牛、三、三四一匹の牧牛、六五四匹の羊、二三七匹の豚、九、〇一四羽の鶏、三匹の山羊、一〇羽のガチョウ、五羽の家鴨が存在した。

この目録は人々がその産業と市場を打建てる為に最も有用なものを、如何にしてこの遙か西方の地に携えて來たかを、よく示している。

○ユタに於ける早期の町々

ユタの開拓地に於て、男たちはその家族たちと共に更に辺境の地に入殖して、土地を手し彼らの家を建設すべく選抜されたのである。これにはインディアン人に対処し、荒地を克服する為、強い偉大な性格を持った男女を必要としたのである。開拓者たちは共同生活をなし、同じ信仰の故に、深い兄弟愛を以て、親密に団結していたのである。通常その町は防ぎよの為、城壁をめぐらして要塞とした。要塞の中には、学校、集会所、個々の家屋、更に市場などが設置されていた。各人は彼自身の土地を取り、又は一畝の地を割当てられて、兄弟たちの助けにより、すぐに家を建てたのである。彼は個人の住宅地、耕地及び牧場を所有したのである。荒地又は峡谷に彼らはその家畜を共同で放牧したのである。婦女子を含めての定期的集會が催され、共同社会のすべての事項が同一の票決権を以て討議されたのである。集會に於て、溝を堀るか、学校の為にストロヴをかうか、ダンスをさせるか又は娯樂ホールを建てるか等が討議された。それは典型的なニューイングランド式町の集會で著しく民主的であることを特徴

とした。すべての人が自由に討議する権利を持つていた。

ユタの開拓者たちの町々は、經濟上の三原則をその基礎としていた。第一は土地の自由取得、すべての人が自身の土地と家を持つように奨励された。第二は町の社交的及び知的中心である集会所及び学校の維持、第三は人々の精神的及び肉体的福祉を討議する為に、全町民の参加する民主的集會である。町々は交易の中心地となり、逐次よい道路や橋を以て、連結されて行つた。物々交換が行われ、農業の育成強化に伴い共同加工の計画が普及して行つた。人々は外界との交通を念願する余り一八五〇年にユタを通過する太平洋鉄道敷設の請願を彼らの立法機關を経て国会に提出したのであった。一八四九年早々にソルト・レーク市に商會が設立され、その経営者はアイダホのフォート・ホールと交易し、毛皮商から毛皮を購入した。四十九年度の人たちはカリフォルニアへの途上、ここで煙草、ベーコン、帽子、長靴及び短靴を発見し、衣類、帽子、手袋、キャラコ、毛織物などを売つたのであった。彼らは又彼らの牛馬を開拓者たちのよりよきものと取換える為に処分したのであった。

○開拓者の家

開拓者たちは丸太と煉瓦を以てその家を、建てた。丸太の家はよく建設された。材木は山から搬出され斧又は大のこぎりで適当な型に切られた。製材所は人々に床及び屋根の為のよい材料を与えた。煉瓦は南方のメキシコ人や、インディアン人たちが古くから用いていたような、太陽で乾燥させたものである。煉瓦建ては夏に涼しく冬は暖かであり、最も耐久力のある住居である。この当時、ユタのすべての町に多数のこの美しい煉瓦建てが見られたが、現今の煉瓦とセメントによる建築様式が、このメキシコ煉瓦にとって代つたのである。

けれども旧家屋は人々の落付いた生活と強い性格を証明している。その中には大きな煖炉と、一つか二つのもろこしがら寝台、鹿皮と柳で作った繩底の椅子、糸つむぎ車、などがある。切れっ端でよく織られたじゆうたんが勝手間の床に敷かれてある。多くの家に楽器がある。一八四七年に開拓団の人たちは、広原を越えてメロデオン（オルガン的一种）を運び、一八六〇年に牛車隊によって、ソルト・レーク市にリード・オルガンが購入された。牝牛又はバッファロの脊椎骨はよく燭台に使われた。

—未完—



(おとずれた冬の中の開拓者たち)

(三五一頁のつづき)

ッスンを聞いておりましたので、憶えの悪い私でも早く受けることができましたことを感謝しております。それくらい安息日を守り続けて、今日に至っております。信仰と云えば年寄りのお寺参りのこと位に思っていた自分の信仰の認識を新たにしました。結婚前、妻は暫らく田舎の教会にいたことがありますのでキリストについて少しは知識を持っていたようですが、私はぜんぜん知りませんでした。二十二、三年も前に一度聖書を手にした事がありますがとても理解出来ませんでした。智恵の言葉の酒、タバコはのんでおりませんでしたので何等の苦痛もありませんでした。現在子供は二女四男に恵まれて居りますが親としての躰が行きとどかず親の弱点を子供によって見せつけられます。娘二人は神様の恵みの手により導かれ間もなく会員となっております。男子の中学三年と一年と小学三年の三人も教会に参っておりますが自ら悔改めの日の近い事を祈っております。この事について教義と聖約の九三章四二節四四節の言葉が自分の心にしみ渡ります。ともかくも現在声を大にして証し出来ます事を感謝しすべての人々の上に神の恵みがありますように祈りつつイエス・キリストの御名により申上ります。

末日聖徒イエス・キリスト教会歴史粹 (十一)

ジョセフ・フィールディング・スミス著

第二部 時満ちたる神権時代の開始

第八章 モロナイの訪れ

(千八百二十三——千八百二十七年)

一、千八百二十年から二十三年の間に於けるジョセフ・スミスの生活。「私は千八百二十三年の九月二十一日まで平凡な世渡りをつづけて行った。しかしその間、私が示現を受けたと言いつづけて止まないので宗教家といわず宗教家でない人と言わず、あらゆる階級の人たちから始終ひどく迫害された。私が先に示現を受けてからこの千八百二十三年に至る間は、その当時の如何なる教派にも加入することを禁ぜられていた。そしてはなはだ未熟な年でもあり、また友達となって親切に私を待遇し、もし私が間違っていると思ったならば、改心させる為には適当な而も愛情に充

ちた方法で力を尽してくれるのが当然であった人たちからかえって迫害されたものだから、私はあらゆる種類の誘惑を受けるままに任せられた。それで私はあらゆる種類の相手と交わり、度々愚な誤ちに陥り、若気の弱さと、人間のおろかさとを示した。そして遺憾ながらこれらのことは、神のお目障りとなる種々な誘惑に私を誘いこんだ。然しこの告白を聞いて、私が何か大罪かまたは憎むべき罪惡を犯したと思うには及ばない。私にはこのような罪を犯す性質は生来決してなかった。しかし、私は軽卒な行動を犯し、ある時は陽気な連中と交わりなどし、先に私が召されたように、神に召された者が当然保つべき性格と矛盾する行動をした。しかし、これは私の若い頃を回想し、また私の性来陽気な氣質をよく知っている者には、甚しく不思議には思われないであろう。

「これらの結果私は度々自己の弱さと不完全さとを心中

非常に悪いことであると思つていた。ところで、前に言つた九月二十一日の夜である。私はもう寝ようと思つて自分の寢室に入つてから、全能の神に対してすべて私の罪と愚かな行いをお許しになるように、また神の御前では私の立場と状態とがどのようなものかお示しになるようにと祈り且つ願ひ求めた。これは、以前に神の御顔を受けたから、神の御示しを得る充分な確信があつたからである。

二、モロナイ現われる。「かように私が神を呼び求めている間に、私は室内に一種の光が現われるのを見つけた。その光は次第に明るさを増して、ついには室中真昼よりも明るくなった。その途端に一人のお方が空中に立つて私の寢台の側に現われた。それは、そのお方の両足が床から離れていたからである。このお方は世にも妙なる白色のゆつたりとした衣を着て居りたもうた。そして、その衣の白さと言えばいかなるこの世の白さをも絶した白さであつた。また私はいかなるこの世のものも、あれほど勝れて白く輝いて見せることができたとは思えない。このお方の手も腕も露わであつて、衣の袖は手首の少し上まで、またその足も露わであつて衣の裾は足首の少し上までしかなくつた。その頭も首も露わであつて、ゆつたりした衣だけを着けておられることを見つけることができた。そして胸のあたりははだかつて、ふところまで見得るほどであつた。この衣が世にも白かつたのみならず、またこのお方の全身は

筆にも口にも絶した輝やきに充ち、御顔は誠にいなづまのように輝いていた。室内は非常に明るかつたが、このお方の体のすぐ周りは特別によく光り輝いていた。私が始めてこのお方を仰ぎ見た時は恐れを感じたが、すぐにその恐れは去つた。

三、モルモン経に就て啓示された。「このお方は私の名を呼びたまひ『われは神の御前より汝に遣わされし者にしてわが名をモロナイと言ひ』、『神は汝に一つの事を成し遂げさせんとして居りたもう』、また『汝の名は、あらゆる国民、あらゆる血族、あらゆる國語の民の中に善くも悪しくも覚えられ、あらゆる人々の中に善くも悪しくも語らるべし』と言ひたもうた。またこのお方は私に、アメリカ大陸の先住民の記録とその起原とを金版に刻んだ一部の書物が埋められてあつて、その中には古代の住民に救ひ主がお伝えになつたままの完全な永遠の福音が載せてある、と告げたもうた。また銀のつるにはめた二個の宝石があつて金版と共に埋めてある。これらの宝石は一つの胸当につけてあつて、いわゆる『ウリムとトミム』を成す。そしてこれらを持つて使つた者が、古代すなわち先の時代の『聖見者』となつたのであり、かの書物を翻譯するために神はこの宝器を予め備めて置きたもうたのである、と仰せになつた。

四、モロナイ古代予言者の言葉を引いて語る。「これらのことを私に言つてから旧約聖書にある予言を引用し始

めたまい、最初にマラキ書第三章の一部を、次にまた世の聖書にあるとはいささか趣き^{おもむ}を異にするが、同じ予言の書の第四章すなわち最後の章を引用したまい、世の聖書にあるような第一節を引用する代りに次のように宣うた。すなわち

『見よ、主の大きいなるおそるべき日の来る前に、予言者エライジャの手によりて、われ神権を汝に顕^{あらわ}わさん』と宣うた。また次の節を少々言葉を変えて

『彼は先祖になされし約束を子らの心に植え、子らの心にその先祖を思わしめん。もし然らずば、主の来る時、全地はことごとく荒れ廃れん』と宣うた。

これらに附け加えて、イザヤ書第十一章を引用してこの予言がまさに成就しようとしていることを言われ、なおまた使徒行伝第三章、廿二および廿三節を全く世の新約聖書にある通りに引用したもうた末、ここに言う予言者とはキリストの御事である。しかしながら「この予言者の言を聴かざる者は、その民の中より絶たるべし」と言うその日はまだ来ていないがそれはすぐにも来るのであると仰せになった。さらにヨエル書第二章、廿八節から末節までを引用して「この事いまだ成就せずといえども間もなくあるべきなり」と。更に述べて「異邦人の時満つるは間近かなり」と言いたもうた。この他多くの他の聖句を引用したまた多くの説き明しを為したもうたが、ここにその事を挙げて言う

ことはできない。

五、モロナイの訓戒。 また宣うた「汝前にわが語りたるかの金版を得たる暁には——かの金版を得べき日は、いまだ実現せざればかく言うなり——これらの版は何人にも示すべからず。かの『ウリムとトミム』の附属せる胸当もまた然り。ただこれらを示すべしとわが命ずる者にのみ見すべし。もし余人に見する時は汝滅ぼさるべし」と。このお方が私にかの金版のことを話しておりたもう中に、私の心の中に示現が開けてきて、金版の埋めてある場所を見ることができた。しかも誠に明瞭に見ることを得たから、その後実際にその場へ行つた時にはすぐにそれと知れた。

このお方との交通が終つてから、私は室内の光が先ほどから私と話をして居りたもうたお方のすぐ身のまわりへ次第に集つて行き始めるのを見た。次第次第に光は縮みつづけてついに室内は暗くなつてしまつたが、そのお方の体のすぐ周りだけは光り輝いていた。その途端に私は、あたかも一条の通路が突如天に向つて開くと見たが、このお方はそれを昇つて行つてついに全く姿が見えなくなり、室内はこの天来の光明が現われる前の暗黒に歸つていた。

六、モロナイ再び現われる。 「私はこの場の奇異な有様を冥想^{めいそう}しつつ、またこの世の常でない使者によつて私に告げられた事を非常に驚ろき怪しんで横になつていたが、私が沈黙考している最中に、突然また室の中が明るくな

り出したのを見つけた。そして言わば突如として、また同じ天の使者が私の床の側に居られたのである。この使者は語り始めて最初に訪れた時に語ったところと全く同じことを再び一言一句違えずくり返して告げ、その後で私に飢饉戦争、疫病などによる甚しい荒廃を伴って、この地上に今や来らんとする大いなる審判について告げ、この悲しむべき審判が今の代に於て地上に来ることを告げ、これらの事を述べ終ると先の通りにして再び天に昇って行きたもうた

七、モロナイ三度現われる。

「今はもう心に受けた印

象が余りに深かったため、眼はさえて眠れず私はこれまでに見たり聞いたりしたことにただもう驚ろきのあまり横になって居た。しかし、また私の床の側に同じ使者を見、その使者が前の通りにこの同じ事を私に一々くり返してお話しになるのを聞いた時の私の驚ろきはいかばかりであったか。この使者は私に一つの警告をつけ加えて、私の父の家族は貧しいから、サタンが私を誘って金持ちになるために金の金版を手に入れさせようと試みるであろうと言われた。また「かの金版を得るにつきては汝は神の栄光を現わす以外の目的を心に持つべからず、また神の王国を打ち建てんとする以外の動機に左右せらるべからず、然らずんば汝はかの版を手に入る能わず」と禁じて言いたもうた。この三度目の訪れを終ると、このお方は以前のように天に昇って行かれ、私はたった今経験した事の不思議さに独り思いをめぐらして居った。この天の使者が三度目に私を離

れて昇って行きたもうやほとんどすぐにわとりがときを告げたので、私はもはや暁も間近いことを知った。それであるから私は一晩中、天の使者と会見して居たに相違ない

八、モロナイ四度現われる。

「私はそれからじきに寝

床から起きて、平常通りその日のせねばならぬ仕事に出かけて行ったが、いつもの日のように仕事にかかって見たものの私は全然仕事をする力がないほどからだが疲れているのに気がついた。私と相並んで働いていた父は、私の体具合が悪いと見て家へ帰れと言った。そこで私は家へ行くつもりで出かけたが、私たちの居た畑から垣根を越して出ようとしている中に、全く疲れ果てて私はぐったりと地に倒れ暫くの間全然気を失っていた。始めて気がついたことは、私の名を呼んで話しかける声がすることである。仰いで上を眺めると、かの同じ天使が前のように光に包まれて私の頭上に立ちたもうのが見えた。それからこの使者は、また前夜私に話した通りのことをすっかり語り、父のところへ行って私の受けた誠命のことを語れと命じたもうた。私はこれに従った。私は畑に居た父のところへ帰って行って事情をすっかりくわしく物語った。すると父は私に、これはまさしく神ごとであると言ひ、その使者の言いつけ通りに行ってせよ、と答えた。私は畑を去って、さきに使者が告げてかの金版が埋めてあると言った場所へ行った。ところで、その場所はさきの示現の中でありありと見えたからそこへ着くとその個所がすぐにそこだと私にわかった。

新支部長会組織される

—東京・横浜・仙台—

東中央地方部長会の組織にともない、東京横浜地区の支部長たちが欠員となったので、この席をうめるべく、伝道部長会と、地方部長会とは十月五日、伝道本部に於て合同会議を開き、人選をすすめ、全会一致をもって次の五人の兄弟が選ばれ、支部の会員の支持を得てのち支部長として按手任命される事になった。また、十月十二日に開かれた同じ会に

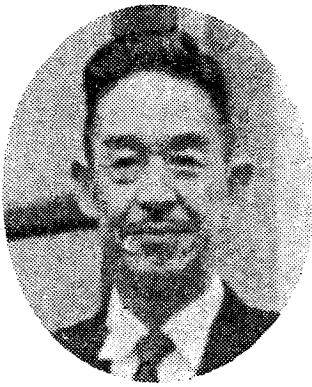
於て、仙台支部長として福田濃兄弟が選ばれた。東京横浜地区の副支部長と書記についても支部長の推薦により同じく次の兄弟が召された。

東京中央支部

支部長 丸山周兵
第一副支部長 遠藤文方
書記 松島烈偉
東京北支部
支部長 丹羽三吾
第一副支部長 福田正勝

東京南支部長

第二副支部長 石川善次郎
東京西支部
支部長 小室敬
東京南支部長
支部長 中東幹夫
横浜支部長
支部長 田中健治
第一副支部長 沢山正義
書記 相良建一
〃 小泉裕功



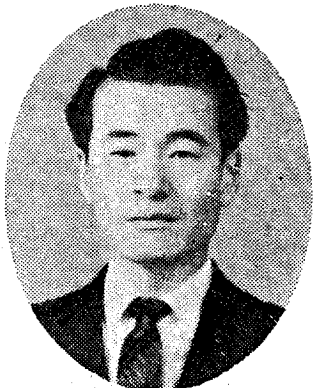
東京北支部長
丹羽三吾



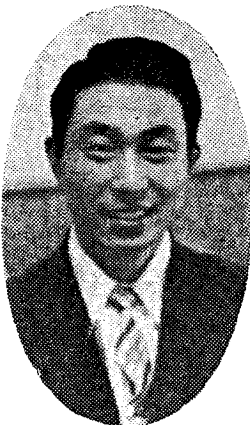
東京中央支部長
丸山周兵



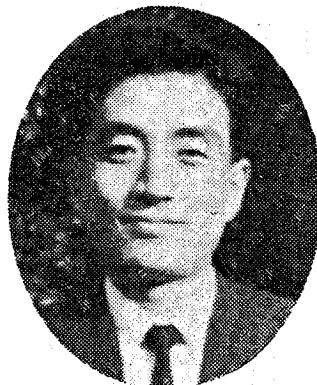
東京西支部長
小室敬



東京南支部長
中東幹夫



仙台支部長
福田濃



横浜支部長
田中健治

〈時の課題〉

「選挙」

デビッド・O・マッケイ大管長

「末日聖徒は主の建設し給うた国の憲法に反対する秘密結社や団体には全く無関係である。またこの憲法は公正にして、聖なる原則に従い、人の権利と保護のために常に維持されねばならぬものなのである。」

『すなわち、わが彼らに制定を許したる、また且つ神聖なる原則によりてあらゆる人々の権利と保護とを守る為に維持すべき人民の律法と憲法とに従いて汝らの上に権威を持つ者に切に願ひ、かくして、人ごとくわれらより与えられた良心に従ひ、未来に関する教義と原理に適う行を為し、審判の日に至りて自己の罪を負うべきなり。故に、何人も相互に束縛するは正しきに非ず。われ実にこの目的のためにわが挙げたる賢き人々の手によりてこの地の憲法を制定せしめ、流血によりてこの地を贖えり』
(教義と聖約第百一章七十七節〜八十節)

勿論、政府にも改正されねばならぬ誤りはある。また明らかに不正であり、不適切であると考えられるものもある。諸君が不正な、且つ不適切なものを变えたいと思う時には、選挙日に投票に出かけ、公衆の職務につくために誰れが適任であるかということを発言し得る諸君の特権を主に感謝しなさい。

まず神を崇拝する者となり、ついで国の憲法を支持し、維持することほど、教会の統一に役立つものはないと知るべきである」
(「内に潜む敵に心せよ」より)

人命救助で感謝状

—クレイガン長老—

感謝状

ワラスクレイガン殿

あなたは昭和十五年五月十九日
至令頃市内消防隊の梅尾茂則さん
長男が消防隊路に横断溝死
寸前、通行人衆見救い流れに
勇救し、果敢た勇気を献じ、
誠實な行爲を為し、
よって記念品を贈り深甚なる
感謝の意を表します

昭和十五年六月十八日

消防隊長 井内謹二



旭川支部ク
レイガン長老
は五月十二日
午前九時五十
分ごろ栄町西
一丁目の火防
放水路でおぼ
れている同町
町稲尾茂さん
長男茂則君を
助け町民の信
頼を一身に集
めた。口頃の
神を愛する大
なる愛がこの
様な善行を生
んだ事を感謝
します。

支部所在地

阿倍野 大阪市阿倍野区阪南町中一ノ三八
旭川 旭川市八条五丁目
福岡 福岡市薬院大通二ノ五五
群馬 高崎市並榎町二七五
広島 広島市古田町古江四〇〇ノ三
金沢 金沢市成瀬町一ノ四 野田方
甲府 甲府市富士見町一
松本 松本市沢村一六〇四
室蘭 室蘭市幸町八九
名古屋 名古屋市中昭和区北山町三ノ四一
新潟 新潟市中大畑町五五七 金井方
西ノ宮 兵庫県西ノ宮市田代町一一一
岡町 大阪府豊中市岡町北二ノ一八
岡山 岡山市国富一ノ一九 丹下方
小樽 小樽市富岡町一ノ三五
三ノ宮 神戸市灘区篠原本町四ノ三五
札幌 札幌市北二条西二四丁目
仙台 仙台市光禅寺通り二八
東京中央 東京都渋谷区八幡通一ノ三四
東京北 東京都豊島区椎名町四ノ二〇六八
東京南 東京都大田区南千束町二四九
東京西 東京都武蔵野市吉祥寺三六八
山形 山形市諏訪町三九七
柳井 山口県柳井市今市三九一
横浜 横浜市港北区篠原町二九
普天間 沖縄宜野湾村野嵩区三二八
那覇 沖縄那覇市松尾区一三九

編集後記

伝道強調の三カ月にちなんで特集記事を集めてみましたが、企画がおそかったので東京の会員の記事にかぎられてしまいました。原稿を依頼した兄弟姉妹は時間がないのにもかかわらず本当によく書いて下さいました。心から感謝を申し上げます。

伝道の強調の月はあと二カ月あります。会員一人一人が宣教師というマッケイ大管長の昨年のメッセージは今でも生きておりますから、全伝道部の会員が、この運動に参加して下さい。伝道を外人の宣教師のみにまかせず、我々の手でもっと成果を上げようではないですか。

東京―横浜の非専任宣教師はよく働いており常日頃に感心致しておりますが、最近改宗者の数を正した所、専任の宣教師よりはるかに改宗者を獲得して居りました。日本人の手で日本人を改宗させる事は努力さえすれば、外人宣教師のおよぶ所ではないのです。

(大塚)



11月号表紙—モルモン宣教師

月刊「聖徒の道」第四卷第十一号

一九六〇年十一月一日発行

実価 一ケ年 四五〇円

一部 四十円

編集兼
発行人

ポール・C・アンドラス

発行所

東京都港区麻布広尾町十四

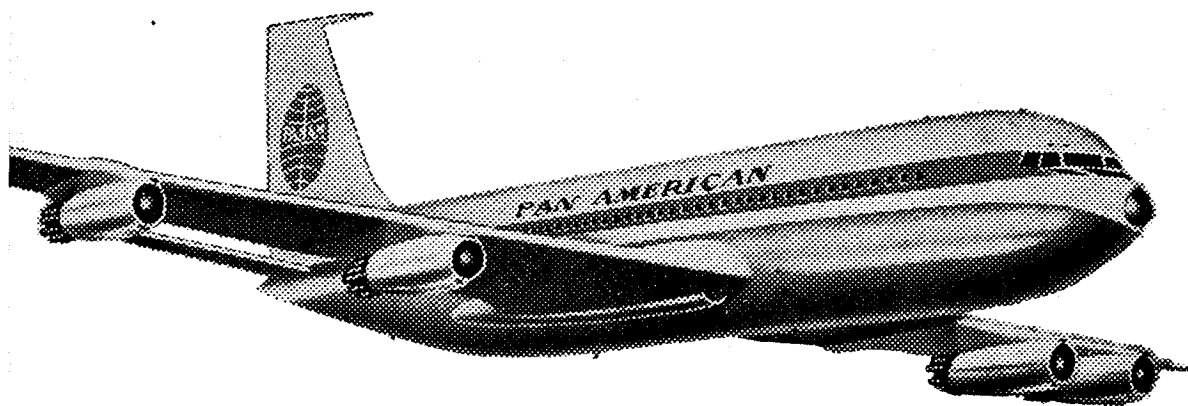
末日聖徒イエス・キリスト教会

北部極東伝道部

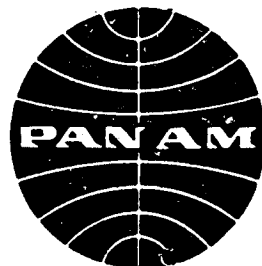
JETS

航空界のリーダー パン アメリカンが誇る 全世界を結ぶジェット クリッパーの航空網

- ・太平洋横断……………毎日就航
- ・香港へ……………週 5 便
- ・ヨーロッパへ(香港から)…週 6 便



パン アメリカンのジェット クリッパー* は太平洋と大西洋を結び アジアとヨーロッパの両大陸を横断 その上 北極もとんでいます 南米に於いてもパン アメリカンのジェット クリッパーはニューヨーク ブエノスアイレス間を時速1,000キロで往復しています



世界で最も
経験ある
航空会社

ご用命は最寄りの航空代理店又は弊社営業所で承ります
東京・千代田区丸の内 三菱商事ビル 電話 (211) 2441
大阪・北区中之島 大阪グランドホテル 電話 (26) 6048~9
名古屋・中村区堀内町 ニュウ名古屋ホテル 電話 (55) 5131

*合衆国特許局登録商標